北海道立子ども総合医療・療育センター

年報　2021 年

＜基本理念＞

私たちは，医療・保健・福祉の有機的な連携のもとに，出生前から一貫した医療・療育を総合的に提供し，将来を担う子どもたちの生命をまもり，健やかな成長・発達を支援します.

＜基本方針＞

1　子どもの人権を尊重し，高度で良質な医療・療育を総合的・継続的に提供します.
2　子どもや家族の立場に立って，環境を整え，安心して利用できる施設をめざします.
3　教育・研修・研究活動に力を注ぎ，人材育成と医療レベルの向上を図ります.
4　地域の保健医療福祉機関と連携し，子どもたちの地域での在宅生活を支援します.
5　道民の理解と信頼が得られるよう効率的で透明性の高い健全な運営を行います.

目次

1　巻頭言 ･･･ 1
2　沿革 ･･･ 3
3　施設 ･･･ 5
4　組織 ･･･ 7
5　決算状況 ･･･ 10
6　診療業務 ･･･ 11
（1）統括表
（2）紹介患者
（3）新規外来患者
（4）新規入院患者
7　新型コロナウイルスワクチン接種対応 ･････････････････････ 15
8　こどもたちの行事 ･････････････････････････････････････ 17
9　病棟紹介 ･･･ 18
10　内科部 ･･ 19
（1）小児神経内科
（2）小児血液腫瘍内科
（3）総合内科
（4）小児内分泌内科
（5）小児腎臓内科
（6）遺伝診療科
11　第一外科部 ･･ 23
（1）小児外科
（2）小児脳神経外科
（3）小児泌尿器科
（4）小児耳鼻咽喉科
（5）小児歯科口腔外科
12　第二外科部 ･･ 28
（1）小児心臓血管外科
（2）小児眼科
（3）小児形成外科
13　特定機能周産期母子医療センター ･････････････････････････ 32
（1）新生児内科
（2）産科

14　総合発達支援センター ･････････････････････････････････････ 35
(1) リハビリテーション小児科
(2) リハビリテーション整形外科
(3) 小児精神科
(4) リハビリテーション課
15　循環器病センター ･･･ 43
(1) 小児循環器内科
(2) 小児心臓血管外科
16　手術部 ･･･ 45
(1) 手術部門・麻酔科
(2) 集中治療科
(3) 臨床工学部門
17　放射線部 ･･･ 48
18　検査部 ･･･ 50
(1) 動向
(2) 臨床検査部
(3) 病理診断科
19　薬剤部 ･･･ 52
20　栄養指導科 ･･･ 54
21　看護部 ･･･ 55
22　地域連携課 ･･･ 62
23　医療安全推進室 ･･･ 69
24　業績 ･･･ 73
25　編集後記 ･･･ 82

1　巻頭言

2021 年（令和 3 年）年報発行にあたって

北海道立子ども総合医療・療育センター（以下コドモックル）2021 年報（令和 3 年）をお届けいたします．各部門の 1 年間の振り返りと成果をお目に止めていただけると幸いです．

2020 年 1 月から始まった COVID-19 感染症の影響は，ウイルス自体変異を繰り返し 2021 年も相変わらず続いております．保健所，道立病院局始め地域の医療機関や関係機関と連携し，ICT の的確な準備の元，感染者受け入れ体制を整備しました．とはいえ多くの入院患者は，多くの診療科での治療が必要な難治例や観血的治療例や，胎児循環器疾患例が主であったのは言うまでもありません．

Out reach では厳重な感染対策を行いながら，精神科，外科による地域支援を再開しましたが，コドモックルの専門性を高めるため，道内医育大学だけではなく道外からも専門外来や特殊な手術応援の派遣が継続され，高度な治療が実行されたことは感謝に耐えません．

さて，心のケアに関しては，入院・手術・分娩が出来ないのでは，と不安におののく患者様ご家族が安心して利用いただけるように，子どもの未来に不安を抱く保護者が気軽に相談できるよう窓口を設けた他，一部病棟で行っていた公認心理師の病棟ラウンドを、心安く相談出来るような雰囲気で全病棟にて行うようにしました。

入院児対策として，入院すると外泊出来ず，コロナ渦では面会には時間や人数の制限があり，プレイコーナーやおもちゃの利用も制限されるという子どもたちのストレスを少しでも早くに拾い上げることを目的に，心理調査を 3 回行いました．全体では 27%の子ども達に軽微なものを含めると不適応症状があり，病棟別では，安静を強いられ病棟内移動が多い外科病棟で高い，という結果でした．心的症状が出現している子どもに対しては特別なケアを行うのはもちろんのこと，症状が出現していない子ども達にも心理的ケアの試みをスタッフ総動員で行いました．

子どもは発達水準に合わせた対応の必要性があり，早期に見つけ見逃さないこと，患児や保護者の心が安定のためには，スタッフの心のケアも重要であることが実感されました．これからの医療は言うまでもないことかもしれませんが，少子化のなか，質が問われ精神面の介入や環境に配慮することが大切であろうと思われました．

このような状態の中でも，コドモックルは着々と歩みを止めず，2020 年 8 月 NICU 増床に引き続き GCU 工事も完了し、機能が充実したため新規患者受け入れが拡大しました．亜急性期医療から回復期医療への受け渡しを地域連携課在宅支援室が担い，連携先と Web を活用した会議を行うなど円滑な移行支援を継続しました．

コドモックルは先天性心疾患手術，NO 治療が出来る数少ない病院の一つであるため，

PICU・NICUとも，循環器疾患症例が、多発奇形症候群などとともに，増加しました.

CT・MRIの更新，ナビゲーションシステムの運用が開始されるなど，精密度が上がり検査時間も短縮し，治療にますます貢献できると考えております.

また，働き方改革でタスクシフト/シェアが進み，DPC 準備病院になるべく体制作りも開始しました.コドモックルは小児科専門研修プログラムの基幹病院でもありますが，多くの診療科の専門連携認定施設となっております.臨床研究や大学との共同研究も多く，医療関係を中心とした学生指導や実習も行い，育成に取り組んでおります.

これからも道内の多くの病院や医育大学，地域医療構想を担う道立病院局と協調しながら，災害や新興感染症などがあっても道民の皆さまが利用しやすい，コドモックルならではの治療や療育ができる病院を目指して進んでいきたいと思っております.

子ども達は天真爛漫で素晴らしい未来を予感するきらりとしたものを全員持っております．そのまなざしが曇らないよう日々取り組んでまいります.

お気づきの点は多々あると思いますが，これからも暖かくコドモックルを見守っていただけますようどうぞよろしくお願いいたします.

令和４年１０月

センター長　續　　晶子

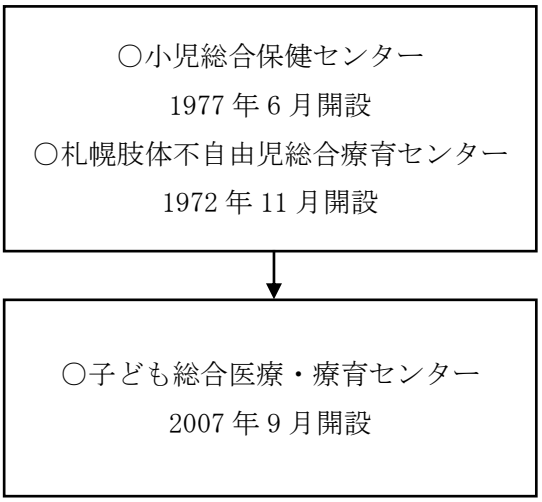
2　沿革

(1) 目的

2007 年 9 月 1 日，「北海道立子ども総合医療・療育センター」（愛称：コドモックル）を札幌市手稲区金山に開設した．当センターは，全道域を対象とした高度専門的な医療を担ってきた小児総合保健センターの医療機能と，道央・道南地域における療育を担ってきた札幌肢体不自由児総合療育センターの療育機能を一体的に整備し，保健・医療・福祉の有機的な連携のもとに出生前から一貫した医療・療育体制を確立し，将来を担う子どもたちの健やかな成長・発達を支援することを目的としている．

(2) 施設の沿革

当センターは，小児医療と療育の機能の併設型ではなく，一体的に整備した施設であり，整備に当たっては，施設機能の基盤となる小児総合保健センター・札幌肢体不自由児総合療育センターが，それぞれの分野における先駆的施設として設置され，長年にわたり運営されてきたことから，そのあり方等を巡る多くの論議のもとに整備計画が策定された．



＜整備の沿革＞

・　1996 年 3 月「あり方検討報告書」による提言

両センターともに，施設の老朽化や狭隘化が顕著となり，また，利用者ニーズの多様化・高度化を背景に更なる機能強化すべきとの論議のもとに，施設毎の報告書を策定

・　1998 年 3 月「整備方針」策定

保健・医療・福祉の連携の観点から小児医療と障害児療育を総合的に進めるための機能の充実に向けた整備方針を策定

・　2001 年 3 月「整備構想」策定

多様化する小児医療や重度・重複化する障害に対し，保健・医療，福祉，教育などの分野が密接に連携した施策を推進することが必要との考えのもと，小児医療や障害児

療育を総合的に進めよう両センターを一体的に整備する構想を策定

・　2002 年 2 月「基本計画」策定
　北海道立小児総合医療・療育センター（仮称）基本計画
　小児センターと療育センターの機能を一体的に整備し，出生前からの一貫した医療・療育体制を整備する基本計画を策定
・　2003 年 3 月「基本設計」
・　2004 年 3 月「実施設計」
・　2004 年 7 月「病院開設許可」
・　2004 年 10 月「工事着工」
・　2007 年 2 月「竣工」
・　2007 年 9 月「新センター開設」

(3) 施設の概要

札幌市中心部から小樽方面に車で約 15 キロメートル，JR 利用の場合は星置駅から徒歩で約 10 分の距離にあり，国道 5 号線に面した住宅地にある．

建物は RC 造 4 階地下 1 階建て延べ約 2 万 4，600 平方メートル，病床数 215 床，25 診療科，職員定数 376 名（2021 年 4 月 1 日現在）である．

3　施設

(1) 施設の概要

所在地　　札幌市手稲区金山１条１丁目 240 番 6

施設規模　24，615．7 平方メートル（RC4 階地下１階）

養護学校併設／屋上ヘリポート設置

開設年月　2007 年 9 月

病床数　　215 床（医療部門：105 床／療育部門：110 床）

(2) 施設構成

３階　医療部門＝（105 床）母性病棟／NICU・GCU／A 病棟／B 病棟／手術・集中治療室

２階　療育部門＝（110 床）生活支援病棟／医療・母子病棟／リハビリ室

１階　外来部門＝正面玄関／総合受付／外来診察室／臨床検査室／放射線科／外来リハビリ室

地下１階　薬局・サービス部門＝薬局／栄養科／SPD(物流管理室)／食堂／売店／理容室／駐車場

(3) 診療科目 25 科

小児科（総合診療科），小児脳神経外科，小児心臓血管外科，小児外科，整形外科，小児眼科，小児耳鼻咽喉科，放射線科，麻酔科，小児歯科口腔外科，小児精神科，リハビリテーション科（小児），リハビリテーション科（整形），小児循環器内科，産科，小児形成外科，小児泌尿器科，小児神経内科，新生児内科，小児内分泌内科，小児血液腫瘍内科，遺伝診療科，小児腎臓内科，病理診断科，小児集中治療科

(4) 充実機能

①　「特定機能周産期母子医療センター」の設置

ハイリスクの胎児や新生児に対する周産期医療の提供

②　「循環器病センター」の設置

先天性心疾患に対応したカテーテルインターベンションなどの高度先進医療の提供

③　「総合発達支援センター」の設置

科学的根拠に基づく医学的リハビリテーションの提供

新生児からの障がいの軽減に向けた医療と療育が連携したリハビリテーションの提供

④　「地域連携センター」の設置

地域の関係機関と連携した相談支援及び在宅支援室の設置による多職種による入退院・在宅支援

⑤　アメニティーの重視

子どもに優しい空間づくり，遊びと暖かなぬくもりを感じるアートワークの設置

⑥　医療機器等

三次元動作解析装置，近赤外線脳機能測定装置，全身骨密度体組成測定装置，
放射線治療システム，CT 付ガンマカメラ，循環器系 X 線撮影装置，
64 列型マルチスライス CT，MRI，無菌室ユニットなど

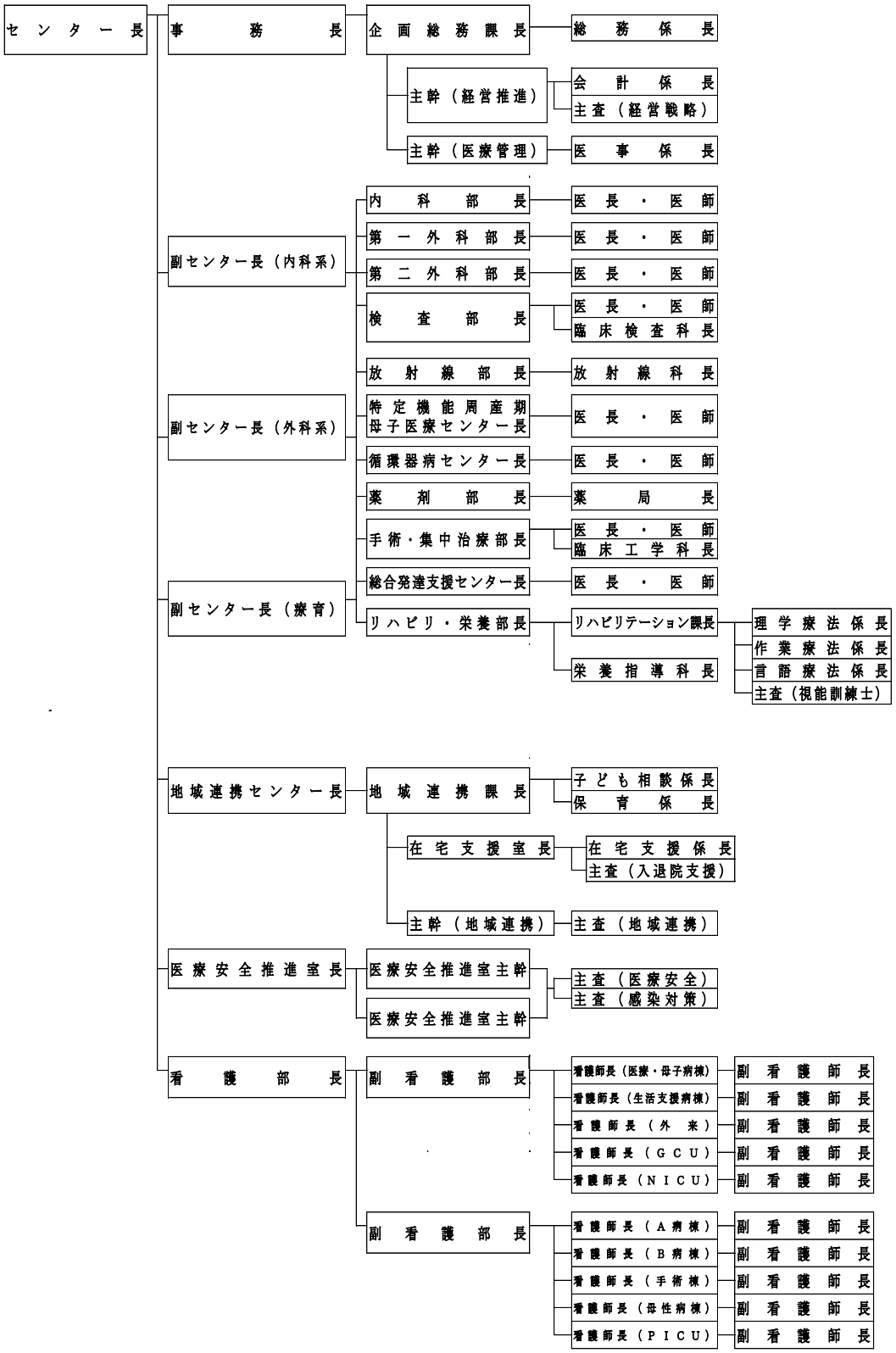
⑦　主な医療情報システム

電子カルテ，オーダーリングシステム，画像ファイリングシステム，
医事会計及び看護支援システムなど

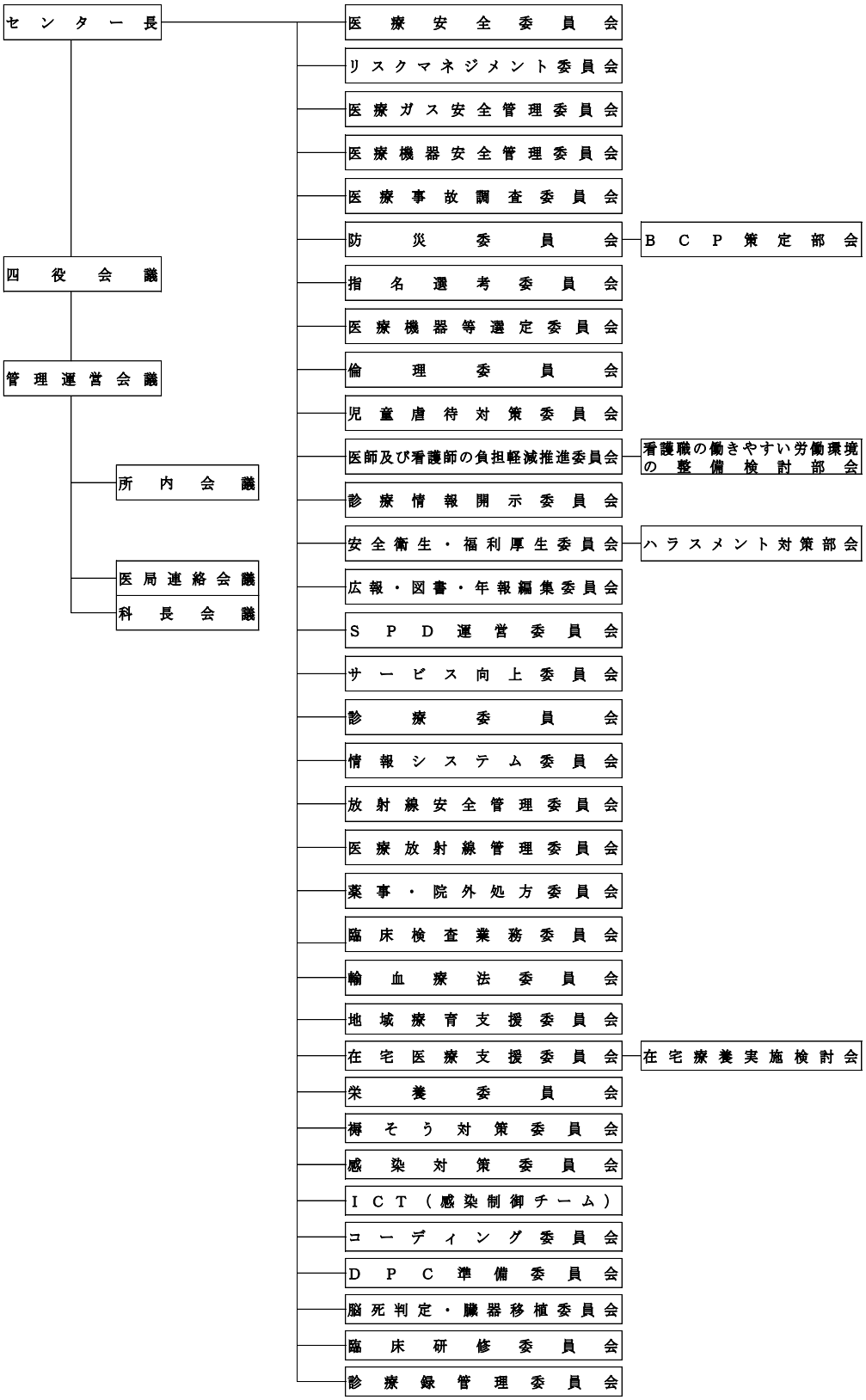
(5)　位置図

4　組織

(1) 子ども総合医療・療育センター組織図



(2) 各種会議・委員会


センター長
四役会議
管理運営会議
所内会議
医局連絡会議
科長会議
医療安全委員会
リスクマネジメント委員会
医療ガス安全管理委員会
医療機器安全管理委員会
医療事故調査委員会
防災委員会
BCP策定部会
指名選考委員会
医療機器等選定委員会
倫理委員会
児童虐待対策委員会
医師及び看護師の負担軽減推進委員会
看護職の働きやすい労働環境の整備検討部会
診療情報開示委員会
安全衛生・福利厚生委員会
ハラスメント対策部会
広報・図書・年報編集委員会
SPD運営委員会
サービス向上委員会
診療委員会
情報システム委員会
放射線安全管理委員会
医療放射線管理委員会
薬事・院外処方委員会
臨床検査業務委員会
輸血療法委員会
地域療育支援委員会
在宅医療支援委員会
在宅療養実施検討会
栄養委員会
褥そう対策委員会
感染対策委員会
ICT（感染制御チーム）
コーディング委員会
DPC準備委員会
脳死判定・臓器移植委員会
臨床研修委員会
診療録管理委員会

(3) 各種会議・委員会運営状況

区分	会議・委員会名	議長・委員長等	主な構成メンバー	事務局
会議	四役会議	センター長	副センター長等４名	企画総務課総務係
会議	管理運営会議	センター長	副センター長等１９名	企画総務課総務係
会議	所内会議	センター長	事務長等３６名	企画総務課総務係
会議	医局連絡会議	センター長	副センター長等５１名	企画総務課総務係
会議	科長会議	センター長	随時指名	企画総務課総務係
委員会	医療安全委員会	センター長	副センター長等１９名	医療安全推進室
委員会	リスクマネジメント委員会	医療安全推進室長	医長等２８名	医療安全推進室
委員会	医療ガス安全管理委員会	医療安全推進室長	医長等２８名	医療安全推進室
委員会	医療機器安全管理委員会	医療安全推進室長	医長等２８名	医療安全推進室
委員会	医療事故調査委員会	医療安全推進室長	随時指名	医療安全推進室
委員会	防災委員会	センター長	副センター長等１９名	企画総務課総務係
	ＢＣＰ策定部会	企画総務課長	企画総務課主幹等６名	企画総務課総務係
委員会	指名選考委員会	センター長	副センター長等４名	企画総務課会計係
委員会	医療機器等選定委員会	センター長	副センター長等４名	企画総務課会計係
委員会	倫理委員会	検査部長	副センター長等１４名 （うち外部委員２名）	企画総務課総務係
委員会	児童虐待対策委員会	総合発達支援センター長	外科部長等６名	地域連携課在宅支援係 子ども相談係
委員会	医師及び看護師の負担軽減推進委員会	副センター長	医長等９名	企画総務課総務係
委員会	診療情報開示委員会	副センター長	副センター長等１３名	企画総務課医事係
委員会	安全衛生・福利厚生委員会	企画総務課長	医長等１３名	企画総務課総務係
委員会	広報・図書・年報編集委員会	循環器病センター長	医長等１０名	企画総務課経営戦略主査
委員会	ＳＰＤ運営委員会	外科部長	看護部長等１０名	企画総務課会計係
委員会	サービス向上委員会	事務長	看護部長等１１名	企画総務課総務係
委員会	診療委員会	副センター長	内科部長等２２名	企画総務課医事係
委員会	情報システム委員会	外科部長	医長等１０名	企画総務課医事係
委員会	放射線安全管理委員会	放射線部長	医長等１２名	放射線部
委員会	医療放射線管理委員会	放射線部長	医長等１２名	放射線部
委員会	薬事・院外処方委員会	薬剤部長	副センター長等５名	薬剤部
委員会	臨床検査業務委員会	検査部長	循環器病センター長等９名	検査部
委員会	輸血療法委員会	医療安全推進室長	医長等７名	検査部
委員会	地域療育支援委員会	センター長	事務長等４名	地域連携課
委員会	在宅医療支援委員会	副センター長	特定機能周産期母子医療センター長等１３名	地域連携課在宅支援係
	在宅療養実施検討会		医師等	地域連携課在宅支援係
委員会	栄養委員会	リハビリ・栄養部長	医長等１２名	栄養指導科
委員会	褥そう対策委員会	副センター長	副看護部長等７名	看護部
委員会	感染対策委員会	センター長	副センター長等１９名	医療安全推進室
委員会	ＩＣＴ（感染制御チーム）	特定機能周産期母子医療センター長	医長等１２名	医療安全推進室
委員会	コーディング委員会	外科部長	医療担当部長等６名	企画総務課医事係
委員会	ＤＰＣ準備委員会	副センター長	外科部長等１４名	企画総務課医事係
委員会	脳死判定・臓器移植委員会	副センター長	内科部長等１１名	企画総務課医事係
委員会	臨床研修委員会	センター長	随時指名	企画総務課総務係
委員会	診療録管理委員会	副センター長	循環器病センター長等１０名	企画総務課医事係

5　決算状況

区　　分			2021年度 決算額 円	構成比 %
病院事業収益			3,939,241,892	100.0%
	医業収益		2,779,226,584	70.6%
		入院収益	2,143,309,605	54.4%
		外来収益	593,739,812	15.1%
		その他医業収益	42,177,167	1.1%
	医業外収益		1,158,843,319	29.4%
		受取利息	0	0.0%
		補助金	25,251,285	0.6%
		他会計負担金	0	0.0%
		患者外給食収益	1,581,752	0.0%
		長期前受金戻入	450,405,392	11.4%
		医療型障害児入所施設収益	675,504,621	17.1%
		その他医業外収益	6,100,269	0.2%
	特別利益		1,171,989	0.0%
		固定資産売却益	0	0.0%
		過年度損益修正益	279,239	0.0%
		その他特別利益	892,750	0.0%
収益合計			3,939,241,892	100.0%
病院事業費用			6,583,198,452	100.0%
	医業費用		4,685,959,952	71.2%
		給与費	2,971,179,826	45.1%
		材料費	755,590,060	11.5%
		経費	667,894,819	10.1%
		減価償却費	278,754,104	4.2%
		資産減耗費	5,497,492	0.1%
		研究研修費	7,043,651	0.1%
	医業外費用		1,865,211,718	28.3%
		支払利息及び企業取扱諸費	117,372,311	1.8%
		繰延勘定償却	0	0.0%
		長期前払消費税勘定償却	42,848,490	0.7%
		患者外給食材料費	0	0.0%
		医療型障害児入所施設費	1,704,990,917	25.9%
		雑損失	0	0.0%
	特別損失		32,026,782	0.5%
		固定資産売却損	235,735	0.0%
		固定資産譲渡損	0	0.0%
		過年度損益修正損	31,791,047	0.5%
		その他特別損失	0	0.0%
費用合計			6,583,198,452	100.0%
当年度純損失			2,643,956,560	

医業収益／医業費費用×１００（%）	59.3%

6　診療業務

(1) 統括表

区分			2021年
入院患者	病床数	A	215　床
	延患者数	B	42,127　人
	入院患者数	C	2,315　人
	退院患者数	D	2,307　人
	病床利用率	$\frac{B}{A \times 年度日数} \times 100$	53.7%　%
	平均在院日数	$\frac{B}{1/2(C+D)}$ E	18.2　日
	病床回転率	$\frac{年度日数}{E}$	20.0　回
外来患者	患者実人員	F	36,212　人
	うち新患数		1,528　人
	延患者数	G	38,684　人
	平均通院日数	$\frac{G}{F}$	1.1　日
入院外来患者比率		$\frac{G}{B}$	91.8%　%

(2) 紹介患者

1) 外来患者（新患のみ）

年 紹介 医療機関	2017	2018	2019	2020	2021	暦年合計	構成比(%)
一般病院	468	493	470	416	516	2363	30.6
公的医療機関	288	266	314	283	235	1386	18.0
大学病院	83	71	72	62	74	362	4.7
保健所	99	94	113	119	119	544	7.0
市町村	104	80	65	79	101	429	5.6
その他	35	51	39	37	33	195	2.5
紹介なし	146	307	195	0	450	1098	14.2
不詳	272	474	301	297	0	1344	17.4
合計	1495	1836	1569	1293	1528	7721	100.0

※　一般病院には「診療所」公的医療機関には「肢体不自由児療育センター」をそれぞれ含む.

2) 入院患者（初診患者）

年 紹介 医療機関	2017	2018	2019	2020	2021	暦年合計	構成比(%)
一般病院	52	97	76	53	82	360	26.7
公的医療機関	53	77	64	64	80	338	25.1
大学病院	22	34	43	42	34	175	13.0
保健所	0	1	1	0	0	2	0.1
市町村	1		0	0	0	1	0.1
その他	165	101	83	42	79	470	34.9
合計	293	310	267	201	275	1346	100.0

※　一般病院には「診療所」公的医療機関には「肢体不自由児療育センター」をそれぞれ含む.

3) 年齢階級別患者数（外来新患のみ）

年齢階級	2021 年	
	患者数(人)	構成比(%)
0 ～ 4 週未満	22	1.4
4 週以上 ～ 6 ケ月未満	133	8.7
6 ケ月以上 ～ 1 歳未満	85	0.6
1 歳以上 ～ 3 歳未満	256	16.8
3 歳以上 ～ 6 歳未満	304	19.9
6 歳以上 ～ 12 歳未満	312	20.4
12 歳以上 ～ 15 歳未満	97	6.3
15 歳以上	319	20.9
計	1,528	100.0

(3) 新規外来患者

第2次保健医療福祉圏	2021年 患者数（人）	2021年 構成比（%）
札幌圏	967	63.3
後志圏	146	9.6
南渡島圏	15	1.0
南檜山圏	1	0.1
北渡島檜山圏	3	0.2
南空知圏	32	2.1
中空知圏	21	1.4
北空知圏	1	0.1
西胆振圏	25	1.6
東胆振圏	53	3.5
日高圏	15	1.0
上川中部圏	6	0.4
上川北部圏	1	0.1
富良野圏	1	0.1
留萌圏	9	0.6
宗谷圏	4	0.3
北網圏	6	0.4
遠紋圏	1	0.1
十勝圏	16	1.0
釧路圏	10	0.7
根室圏	2	0.1
他府県	9	0.6
海外		0.0
不詳	184	12.0
道内計	1,335	87.4
道外等計	193	12.6
合計	1,528	100.0

(4) 新規入院患者

第2次保健医療福祉圏	2021年 患者数（人）	2021年 構成比（%）
札幌圏	141	51.3
後志圏	12	4.4
南渡島圏	11	4.0
南檜山圏	0	0.0
北渡島檜山圏	0	0.0
南空知圏	14	5.1
中空知圏	5	1.8
北空知圏	0	0.0
西胆振圏	13	4.7
東胆振圏	19	6.9
日高圏	5	1.8
上川中部圏	8	2.9
上川北部圏	2	0.7
富良野圏	0	0.0
留萌圏	1	0.4
宗谷圏	3	1.1
北網圏	3	1.1
遠紋圏	1	0.4
十勝圏	16	5.8
釧路圏	16	5.8
根室圏	0	0.0
他府県	5	1.8
海外		0.0
不詳		0.0
道内計	270	98.2
道外等計	5	1.8
合計	275	100.0

7　新型コロナウイルスワクチン接種対応

(1) コドモックルにおける新型コロナワクチン接種

2021 年（令和 3 年）2 月より,世界中で猛威を振るう新型コロナウイルス感染症に対するワクチン接種が日本国内でも開始され、当センターでは 5 月の職員接種を皮切りに,2021 年度中に 1,165 名（延べ 2，286 名）の接種を行った.

新型コロナワクチン接種にあたって，接種体制の構築，集団接種の運営，ワクチン管理等を管轄するワーキンググループ「新型コロナワクチン WG」を立ち上げた．WG は大場副センター長をリーダーに，感染対策の専門家として ICT から医師と看護師，接種を担当する看護部から副看護部長，ワクチン管理を担う薬剤部長，副反応等への対応を担う集中治療科医師，行政との調整等を行う事務職員で構成し，会議，シミュレーションを重ね，準備を進めた.

5 月 10 日，センター長を含む 6 名が当センターでの最初の接種となった．この日から 6 月 22 日までの間，会議室を集団接種会場として，コドモックル職員とコドモックルで従事する委託職員のうち，希望者全員 487 人・のべ 972 回の接種を行った．集団接種に対しては，全ての診療科医師から問診や副反応対応への協力があり，全看護単位の看護師が交代でワクチン接種に当たった．受付や接種証明書の記録などの庶務は企画総務課，地域連携課を中心に運営を行った．7 月以降も新入職員等への接種を継続しつつ，併設の手稲養護学校教職員の集団接種，隣接のマクドナルドハウス職員，食堂・売店といったコドモックル内で従事する業者の職員への個別接種も実施した.

患者への接種は 7 月 12 日から開始した．当初は，当センターの入院患者と定期的に通院する患者に限定して接種を開始した．月曜～金曜日，1 日 12 人から開始したコロナワクチン外来は，1 日最大 24 人までの接種に対応した．9 月からは過去に受診歴のあるすべての患者に加え，患者と同居する家族への接種を開始した．9 月～10 月には職員の家族を対象とした集団接種も行った.札幌市内の接種会場が少なくなってきた 11 月頃からは，受診歴のない方でも，高校生以下であれば一般接種として接種を行った.

多くの医療施設が 1･2 回目の新型コロナワクチン接種を終了する中，次に接種年齢に達した子どもが接種できる場所を残せるよう，北海道内唯一の子ども病院の使命として対応を続ける．また 3 回目接種および 12 歳未満の小児への接種にも対応できるよう準備を進め，ワクチン接種を希望する子どもが接種できる環境を整えて参りたい.

2021 年 新型コロナワクチン接種　内訳

	患者	職員	その他	合計
人数（人）	413	586	167	1,165
接種回数（回）	804	1165	317	2,286

（徳安　浩司）

(2) 集団接種会場（ホテルエミシア札幌）への医師派遣実績

北海道では，2021 年 6 月 8 日時点において感染状況が極めて深刻な状況にある札幌圏の感染状況の早期抑制を図るため，ホテルエミシア札幌（札幌市厚別区）に道営の集団接種会場（北海道ワクチン接種センター）を設置することを決定し，当センターに医師の派遣について要請があった．

当センターでは，北海道からの要請を受け速やかに医師の派遣体制を構築し，集団接種開始日である 2021 年 6 月 14 日から終了日である 2021 年 10 月 18 日までの実施期間中，延べ 109 日間においてワクチン接種業務に従事し，續センター長をはじめ多くの医師にご協力いただき，延べ 214 人の派遣を行った．

（久保　智久）

8　こどもたちの行事（ウキウキコドモックルより）

納涼お楽しみ会を開催しました！

令和3年8月4日（水）に「納涼お楽しみ会」を開催しました。

当日は、手稲養護学校の体育館にて、子どもたちとヨーヨー釣りやくじ引きなどを楽しみました。

コロナ禍のため、人数制限を行うなどの感染防止対策を徹底した上での開催となりましたが、子供たちと夏の思い出を作ることができました。

サンタクロースがやってきた！

12月23日（木）、今年もコドモックルにサンタクロースがやってきて、子どもたちにプレゼントを配っていきました！また来年もきてくれるかな！？

9　病棟紹介－A病棟

A病棟は内科系疾患を中心とした病棟である．病床数 30 床（うち無菌室 2 床，陰圧室 1 床）を有し，主な診療科は総合内科，神経内科，循環器内科，血液腫瘍内科，耳鼻咽喉科であり，外科系の検査入院も受け入れている．

長期にわたり治療が必要な疾患や，日常的に人工呼吸器による呼吸管理，喀痰吸引，その他の医療行為を必要とする医療的ケア児が多く入院する病棟である．そのため，入院中の専門的な治療やケアの提供はもちろん，さまざまな疾患や障がいをもちながら成長発達を遂げる子どもたちが，家族とともに健やかな生活を送れるよう，医師，リハビリテーションスタッフ，保育士，薬剤師，ソーシャルワーカーなどの多職種と協働してより個別性のあるケアと継続的な支援を行っている．さらに地域連携室や外来と協力し，在宅医療や地域保健・福祉と密に情報を共有しながら，退院後も個々の状況に応じた切れ目のない支援をめざしている．

また，医療的ケアが必要な患者の受け入れ拡大と，より安全な体制を整えるため 2020 年 8 月より 4 人夜勤体制となり，同年 12 月からは，医療的ケア児の在宅療養支援の一環として検査入院レスパイトを開始した．レスパイト入院に関しては，利用できる対象条件が限られてはいるが，ご家族の負担軽減とお子さんの健康状態の確認をあわせて行っている．必要な時に利用することができ，お子さんとご家族が生活するうえで，少しでも安心につながればと考えている．

さらに，治療によって自宅で過ごすことができないお子さんやご家族が，少しでも楽しみや安らぎを感じられるよう，季節毎の壁面装飾をはじめ，さまざまなイベントを企画している．クリスマスにはサンタがソリを引いてプレゼントを配るなか，各病室でお子さんやご家族と一緒にクリスマスソングを演奏したり，ハロウィンでは仮装をした医師と写真撮影をしたりと楽しい時間となるようなイベントも開催している．日頃から保育士と協力して，プレールームに行けないお子さんの病室での遊びや，養護学校からの訪問学級を受けながら，入院中も日常の遊びや学習の機会が得られるような環境の提供をめざしている．

これからも，多職種と協働しながら，お子さんやご家族が安心して生活できることを大切にして看護を提供していきたい．

10　内科部

(1) 小児神経内科

当科は日本小児神経学会と日本てんかん学会の専門医研修施設に認定されており，両学会で認定された専門医の資格を有する医師を含む常勤医師1名と修練医1名で，1,000名を越える患者様や新規患者様の診察を行っており，けいれん重積などの緊急事態にも，適宜，対応している．2021年の実績は，入院患者数146名（実数），外来患者数5,202名（延べ数）であった．

当科では，痙攣性疾患や神経筋疾患，先天性代謝異常症，神経変性疾患などの神経疾患に対する診療を行っているが，多くの患者様で見られるてんかんの診療が主となっている．発作時脳波や終夜脳波を含むビデオ・脳波同時記録検査（2021年実績は1,119件）や，頭部MRI/MRS，脳血流SPECTなどの神経画像検査などをもとに診断し，定期的な脳波検査や抗てんかん薬の副作用チェックのための血液・尿検査と血中濃度の結果を，検査後直ちに説明した上で治療内容を決定している．薬物療法に反応しない難治性てんかん患者様においては，ACTH療法，ケトン食療法，迷走神経刺激療法，ステロイドパルス療法なども行っており，てんかん外科治療が必要な場合には専門施設へ紹介している．

種々の原因による重症心身障害児の医療も，総合診療科や他科と連携して，総合的な診療を行っており，在宅での人工呼吸管理や経管栄養管理などの在宅医療にも積極的に取り組んでいる．広汎性発達障害を含む軽度発達障害に対しては，小児精神科と連携して診療を行っている．

（二階堂　弘輝）

(2) 小児血液腫瘍内科

2021年1月～12月の1年間に小児血液腫瘍内科として診療を行った患者は66例で，悪性腫瘍は45例，その他の良性腫瘍・血液疾患は21例であった．その内2021年に診断あるいは治療を行った腫瘍患者は6例で，その内訳は，神経芽腫1例，Wilms腫瘍1例，脳腫瘍（非定型奇形腫様ラブドイド腫瘍）1例，後腹膜胚細胞腫瘍1例，肝未分化胎児性肉腫1例，リンパ芽球性リンパ腫1例であった．

近年血液・腫瘍領域において新しい薬剤の開発が進み，腫瘍領域では神経芽腫に対する抗GD2抗体，非腫瘍性疾患領域では，血友病Aに対する抗血液凝固第Ⅸa／Ⅹ因子ヒト化二重特異性モノクローナル抗体，von Willebrand病に対する遺伝子組み換えvon Willebrand因子などを使用する機会に恵まれた．

当センターは小児外科を擁し代表的な小児がんであるハイリスク神経芽腫の治療に力を入れてきた．遅延局所療法（大量化学療法を含めた化学療法終了後に局所療法である外科的切除・放射線療法を施行する），13cis-レチノイン酸による分化誘導維持療法，大量化学療法使用薬剤変更（メルファラン＋エトポシド＋カルボプラチン→ブスルファン＋メルファラン），超ハイリスク患者に対するKIRリガンド不一致同種臍帯血移植（移植は

札幌医大小児科に依頼）などを全国的な臨床研究に先がけて行ってきた．また 2021 年 9 月抗 GD2 抗体が本邦で発売され直ちに使用した.これらひとつひとつの積み重ねにより，かつて 40%に届かなかった長期生存率も 60%を超えるようになって来たと思われる．当センターでもハイリスク神経芽腫の治癒例が増加している．しかし，治癒率が 70～80%を超えることは，現時点では困難と思われる．つまり 3 人の内 2 人が治癒に至ったとしても，あとの 1 人は不幸な転帰をとる．大量化学療法を含めた化学療法の強化により，最大の予後不良因子とされた mycN の増幅も予後因子としての意義を失って来ており，最終的な予後を初発時に予測することは困難である．更なる成績の向上には，経過中に変化したものを含む腫瘍細胞の遺伝子変異の解析を行い，有効な分子標的療法の開発が必要かもしれない．

（小田　孝憲）

(3) 総合内科

2021 年 1 月から 12 月の延べ入院患者数は 190 例であった．

当科は既存の内科系専門診療科（循環器内科，神経内科，血液腫瘍科）以外の内科系入院診療を担う目的で 2020 年 4 月に立ち上がった．総合外来経由や他院から紹介の他，他科紹介されたが総合内科での精査加療が望ましいと判断された場合の入院も担っている．その他，外科系科の入院患者の内科疾患コンサルトも受けている．

患者背景としていわゆる重症心身障害児・者が半数以上を占め，医療的ケアが必要な患者が多いことが特徴である．医療的ケアの内訳としては，気管切開 79 例，人工呼吸器管理 69 例，持続酸素投与 17 例，胃瘻 103 例，経鼻胃管 15 例などとなっている．

疾患内訳は急性気管支炎･肺炎が 60 例と最も多くなっている.その他,検査入院 17 例，医療的ケア導入・調整 10 例なども特徴的である．

在宅支援として 2020 年 11 月に開始した在宅人工呼吸器管理患者のレスパイト入院は 14 名の入院があった．開始から 1 年以上が経過し，患者家族アンケートを元により良いシステム作りを検討中である．また，成人は 31 例を占めた．地域と連携しての在宅診療開始など，トランジションに関しては引き続き今後の検討課題である．

疾患内訳

急性気管支炎・肺炎 60（COVID19　1)，RSV 細気管支炎 12，クループ症候群，急性咽頭炎 6（溶連菌 1)，気管支喘息発作 2，喉頭軟化症 2，急性呼吸不全・気道閉塞 5（気管切開施行 2)，慢性呼吸不全 4（NIV 導入 1，在宅酸素導入 2)，脳死，熱性痙攣，急性胃腸炎 6（O157 2，ノロ＋アデノ 1)，急性肝炎，急性胆管炎，新生児遷延性黄疸 2，クローン病，大腸癌，腎盂腎炎 5（うち敗血性ショック，DIC　1)，検査目的 17，医療的ケア導入・調整 10，レスパイト 14，定期点滴治療 2，形成外科手術 3，周期性嘔吐症 8，摂食障害，顔面神経麻痺，薬疹，多型紅斑，乳児血管腫，溶血性貧血，脱水症，新型コロナワクチン副

反応による発熱，発熱精査 2，高炎症反応精査，失神精査，貧血精査，嘔吐精査 2，血便精査

（重冨　浩子）

(4) 小児内分泌内科

札幌医科大学小児科より鎌﨑穂高医師，石井玲医師が非常勤で外来を行っている．2021 年の外来延べ患者数は 764 名であった．

（編集部）

(5) 小児腎臓内科

1) 実績

外来患者：総数のべ 119 人，実数 60 人（新患 17 人，再診 43 人），1 日平均 6.3 人

疾患内訳：先天性腎尿路異常 20

（膀胱尿管逆流 7，多嚢胞性異形成腎 6，低形成異形成腎 6，巨大尿管 1）

無症候性血尿・無症候性蛋白尿 19

慢性腎臓病 12

（染色体異常・奇形症候群など 7，急性腎障害後 3，先天性心疾患 2）

慢性糸球体腎炎 3

その他 6

（溶血性尿毒症症候群，Lowe 症候群，Fanconi 症候群，多発性嚢胞腎など）

2) コメント

慢性腎臓病，先天性腎尿路異常を中心に，月 2 回（第 2・第 4 木曜日の午後），外来診療を行っている．入院を要する場合，原則，札幌医科大学小児科に依頼している．

（長岡　由修）

(6) 遺伝診療科

コドモックルの遺伝診療科の外来は 2011 年 4 月から開始され，2020 年 3 月までは北海道医療センター小児科の田中藤樹先生（非常勤医）が月 1 回の診療を長らく行っていた．2020 年 4 月からは体制が変わり，総合診療科の臨床遺伝専門医である重冨浩子先生（常勤医）を中心として院内で横断的に遺伝学的診療を行っている．外来診療としては，重冨先生が月 1 回，札幌医科大学付属病院遺伝子診療科の石川亜貴（非常勤医）が月 1 回の遺伝外来を行っている．また 2021 年 4 月からは総合診療科の星野陽子先生も臨床遺伝専門医を目指し，遺伝外来をサポートしている．

2021 年 1～12 月の外来患者数は 83 名であった（2021 年 1～12 月　重冨先生 39 名，石川外来　44 名）．先天異常症候群，染色体性疾患，結合組織疾患，循環器疾患など，疾患領域は多岐に渡る．従来の遺伝学的検査に加え，令和 2 年度診療報酬改定により対象疾患

が大幅に拡大されたD006-4 遺伝学的検査，2021年10月から保険適用となったマイクロアレイ染色体検査，また2015年より開始されている日本医療研究開発機構(AMED)が主導する，未診断疾患イニシアチブ（Initiative on Rare and Undiagnosed Diseases: IRUD アイラッド)での全エクソーム解析などの網羅的ゲノム解析を組み合わせながら診療を行っている．

2017年～2021年12月までにコドモックルの患者は計28名がIRUDに参加しており，全エクソーム解析で診断が確定した症例は，結果が報告された27人中10人であり，診断率は35%であった．

マイクロアレイ染色体検査が保険適用になり，患者数は今後も増加していくことが想定され，2022年2月からは遺伝外来の枠を増やして対応していく予定である．

（石川　亜貴）

11　第一外科部

(1) 小児外科

2021年度は日本小児外科学会認定指導医1名，日本小児外科学会認定専門医2名，常勤医師1名，非常勤医師2名の6名で診療にあたった．全身麻酔下の手術および検査総数は232例と昨年度と比較し約10例減少したが，鼠径ヘルニア手術が約20例減少したことと新生児手術件数が約10例減少したことを考えると他の手術症例は種類，数ともに増加したと言える．慢性特発性偽性腸閉塞症（CIIPS），総排泄腔外反といった稀少難病を経験した．鎖肛に対する後方矢状切開による肛門形成が5例と多かった．当施設の特徴から重症心身障害児に対する外科治療，特に胃食道逆流症（GERD）に対する腹腔鏡下噴門形成術は他施設小児外科と比べその症例数は多い，本年度も16例とほぼ例年通りであった．全例とも大きな合併症なく，概ね術後2～3週間程度で退院可能であった．また，SMA症候群に対する十二指腸空腸吻合術を2例に施行し良好な結果を得た．悪性腫瘍では非常に稀少な肝未分化肉腫や甲状腺原発未分化奇形腫を経験した．

例年通り，札幌医科大学において週1回の小児外科外来診療支援，札幌医科大学医学部5学年学生のポリクリ研修指導，3学年学生の小児外科学講義といった学生教育にも携わった．日本医療大学看護学科で小児医療の講義も3か月にわたり行った．また，月1回の帯広厚生病院への診療支援も継続している．

表１：全新生児症例

先天性食道閉鎖症	1
先天性十二指腸閉鎖症	1
先天性小腸閉鎖症	2
腸回転異常症	1
胎便性イレウス(回腸瘻)	1
鎖肛	計4
人工肛門造設	3
カットバック	1
ヒルシュスプルング病	1
仙尾部奇形腫	1
卵巣嚢腫	計3
嚢腫核出術	1
茎捻転(付属器切除術)	2
その他	3
合計	18

表２：全手術及び検査症例数

全手術/検査症例			
外鼠径ヘルニア手術	計37	先天性胆道拡張症手術	1
Potts	18	良性腫瘍手術	計3
腹腔鏡下	19	腹腔鏡下大網嚢腫切除術	1
臍ヘルニア	10	正中頸嚢胞	2
先天性横隔膜ヘルニア	1	悪性腫瘍手術	計3
胸腔鏡補助下肺葉切除術	2	甲状腺原発未熟型奇形腫	1
腹腔鏡下噴門形成術	16	後腹膜悪性奇形腫	1
腹腔鏡下胃固定術	1	肝未分化肉腫	1
胃瘻造設術	4	リンパ管腫硬化療法	1
腹腔鏡補助下	19	尿膜管切除術	2
胃瘻修復術	4	精巣固定術	3
胃瘻閉鎖術	2	上部消化管内視鏡	20
幽門形成術	1	大腸内視鏡	10
肥厚性幽門狭窄症手術	1	内視鏡的異物摘出	1
十二指腸空腸吻合術	2	内視鏡的ポリープ切除	1
小腸切除術（絞扼性イレウス）	5	食道バルーン拡張術	8
穿孔性腹膜炎手術	1	中心静脈カテーテル留置	17
メッケル憩室手術		その他	20
腹腔鏡下メッケル憩室切除術	1		
メッケル憩室切除術	2	新生児手術	18
ヒルシュスプルング病			
経肛門的ヒルシュスプルング病根治術	2		
腹腔補助下	1		
虫垂炎			
腹腔鏡下虫垂切除術	1		
虫垂切除術	1		
鎖肛手術			
カットバック	2		
会陰式肛門形成術	2		
仙骨会陰式肛門形成術	5		
肛門括約筋切開術	1	**合計**	232

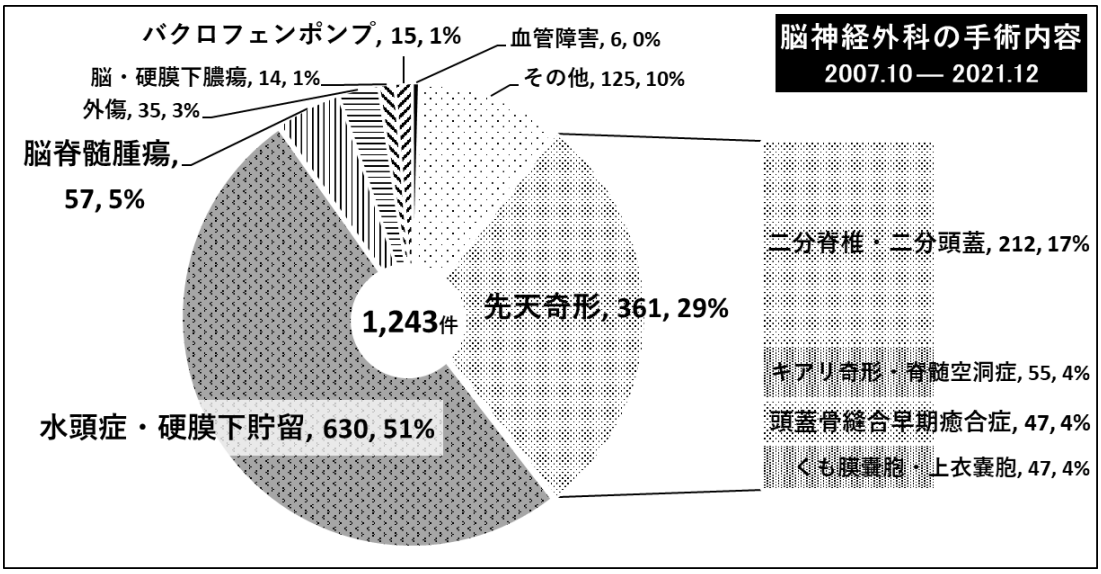
（縫　明大）

(2) 小児脳神経外科

常勤の吉藤和久，大森義範先生のほか，山崎覇久先生（旭川医科大学），齋藤拓郎先生（札幌医科大学）が交代で加わり，2～3人体制で診療した．診療患児は入院数327人，外来数535人，手術数78件であった．COVID-19感染の拡大に伴い，一時的に入院制限，手術制限が行われたものの，年間診療数は例年と大きな差はなかった．2021年までの診療実績は表と図に記す．

手術内訳（過去10年間）

集計年		2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
水頭症・硬膜下液貯留	髄液シャント手術	42	25	24	22	21	31	16	24	28	22
	神経内視鏡手術	3	7	8	7	5	6	4	5	4	4
	その他（ﾘｻﾞｰﾊﾞ，ﾄﾞﾚﾅｰｼﾞ）	11	5	11	12	16	16	14	17	16	14
先天奇形	頭蓋骨縫合早期癒合症	1	5	3	2	5	9	5	4	1	3
	二分脊椎・二分頭蓋	13	15	12	23	17	13	16	15	16	18
	キアリ奇形，脊髄空洞	1	4	3	3	9	5	2	4	5	6
	嚢胞性病変	3	4	7	1	1	5	4	5	2	2
脳・脊髄腫瘍		4	2	5	2	4	2	6	4	5	4
血管障害		0	2	2	4	0	0	0	0	1	0
外傷		2	1	1	3	1	9	5	7	0	1
市中感染症（脳膿瘍・硬膜下膿瘍）		2	1	0	0	0	1	0	0	0	0
機能外科（バクロフェンポンプ設置）		1	0	2	0	2	1	2	2	2	1
その他（シャント抜去術など）		8	6	2	13	10	18	12	7	5	3
計		91	77	80	92	91	116	86	94	85	78



（吉藤　和久）

(3) 小児泌尿器科

2021 年の実績は延べ外来受診 2,478 名，延べ入院患者 802 名，手術並びに麻酔検査 188 件であった.

（西中　一幸）

(4) 小児耳鼻咽喉科

2021 年は 1 月から 3 月まで宿村莉沙，4 月からは佐藤里奈，および光澤博昭が通年で診療を担当した.

外来診察日は従来通り月曜午前（隔週），水曜午前（毎週），金曜午前午後（毎週）であるが，診察日のいかんによらず外来，入院ともに必要に応じて診察を行っている.

本年は新型コロナウイルス感染蔓延に対する感染防御を行いながらの診療となった.

聴覚関連では児の月齢，年齢にあわせて聴性行動反応，条件詮索反応，遊戯聴力検査，ABR 検査，また ASSR 検査などを駆使して聴覚障害の早期発見に努めた.

難聴児の聴覚補償に関して，言語聴覚士と連携し補聴器装用，聴能訓練等のリハビリテーションや補聴器装用管理，人工内耳挿入適応判断等，児の状態に合わせた適切な聴取能を確保すべく診療を継続した.

小児の気道管理手術にも積極的に取り組んでいる.

北海道内で小児気道管理手術可能な病院施設が限られており，道内全域より紹介をうけ気道確保手術の適応判定，手術の施行，手術後の管理をおこなっている.

2021年手術内訳：鼓室換気チューブ留置術 27，気管切開術 10，喉頭気管分離術 11，全身麻酔下気道内視鏡 1，気管孔開大術 5，口蓋扁桃摘出術 23，アデノイド切除術 19，鼻粘膜焼灼術 1，外耳道異物除去術 3，舌小帯形成術 1，頸部腫瘍摘出術 1，喉頭腫瘍摘出術 3，気管バルーン拡張術 6，頚部膿瘍切開排膿術 3

（光澤　博昭）

(5) 小児歯科口腔外科

小児歯科口腔外科は毎週火曜日午後の時間帯に，入院患者を対象に小児一般歯科をはじめ口腔外科の専門的診療を非常勤歯科医師 1 名，非常勤歯科衛生士 1 名の 2 名体制で行っている．毎年，札幌医科大学から派遣された口腔外科専門医が診療に従事している.

当科の主たる診療内容は，歯科領域の 2 大疾患である齲蝕や歯周病をはじめとする顎口腔疾患の入院時スクリーニング，口腔衛生状態の評価ならびに周術期等口腔機能管理である．入院中とくに手術前の口腔衛生状態の改善を図り，フッ化物歯面塗布やブラッシング指導など予防歯科に重点を置くとともに，歯垢（デンタルプラーク）や歯石の付着状況に応じて，歯面清掃・歯石除去や歯科衛生士による歯科保健指導を実施している．長期入院患者に対しては，永久歯への生えかわりで動揺がみられる乳歯の抜歯手術や齲蝕歯

の保存治療等の積極的治療介入も行っている．手術前あるいは化学療法前の口腔機能管理（口腔ケア）においては，歯・口腔の感染源の除去を行うことで口腔衛生状態の向上を目指し，口腔および口腔由来の合併症発生の予防・軽減に努めている．また，局所麻酔下で対応可能な処置や手術も行っているが，全身麻酔下の手術を要する顎口腔疾患に関しては，札幌医科大学附属病院や手稲渓仁会病院の歯科口腔外科と連携して治療にあたっている．

2021 年 1 月～12 月の延べ患者数は 411 人（前年比 4.8%増），1 日平均患者数は 8.4 人（前年比 0.1 人増）で，前年との比較で微増傾向を認めた．罹患率が依然として高い齲蝕，歯周病は慢性の経過をたどり，ある程度進行しないと症状が出現しない場合が多いため，普段からの定期的な診察が必須である．院内各科，近隣かかりつけ歯科と連携して，顎口腔疾患の早期発見・早期治療が行えるよう努める所存である．

（宮﨑　晃亘）

12　第二外科部

(1) 小児心臓血管外科

2014 年 7 月にスタートした夷岡徳彦（北大 2002 年卒）をチーフとする体制も 8 年目を迎えた．この間，鈴木信寛前センター長（現病院事業管理者），續晶子現センター長をはじめとする各診療科のみなさん，特に循環器内科，麻酔科，小児集中治療科の先生方と手術・集中治療部のメディカルスタッフにはこの上ない大きなお力添えを頂戴した．外科系診療科の先生方には貴重な手術枠と PCIU 病床を融通していただいた．また手術室，PICU，病棟のスタッフや臨床工学技士，検査科，薬剤科，事務局のみなさんにも絶大なご援助を賜った．多くの人たちのご支援なくして当科の診療は成り立たなかった．

前年に続いて 2021 年にも大きな人事の異動があった．同門の椎谷紀彦教授が主宰する浜松医大心臓血管外科のご出身で，福岡市立こども病院で研鑽を積んだ岡本卓也医師がさらなる研鑽を積むために 2021 年 4 月から神奈川県立こども医療センターに異動した．代わって北大循環器呼吸器外科からは浅井英嗣医師が着任した．豊富な臨床経験に加え論文執筆にも意欲的であり，当科の価値をさらに高めてくれるはずである．

【2014 年 7 月以降のスタッフ】現在のスタッフ

夷岡徳彦（えぶおかのりよし）（北海道大学 2002 年卒）2014 年 7 月～現在
新井洋輔（あらいようすけ）（北海道大学 2012 年卒）2014 年 10 月～2016 年 3 月
加藤伸康（かとうのぶやす）（北海道大学 2006 年卒）2016 年 4 月～2016 年 9 月
大場淳一（おおばじゅんいち）（北海道大学 1982 年卒）2016 年 7 月～現在
荒木　大（あらきだい）（北海道大学 2011 年卒）2016 年 10 月～2019 年 7 月
新井洋輔（あらいようすけ）（北海道大学 2012 年卒）2019 年 8 月～現在
岡本卓也（おかもとたくや）（浜松医科大学年 2011 年卒）2020 年 4 月～2021 年 3 月
浅井英嗣（あさいひでつぐ）（札幌医科大学 2006 年卒）2021 年 4 月～現在

【施設認定】

心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設（関連施設）2017 年 1 月 1 日～現在
日本集中治療医学会認定専門医研修施設 2019 年 10 月 1 日～現在

【2021 年 12 月 31 日時点でのスタッフの認定医・専門医資格】

夷岡徳彦
　外科専門医
　心臓血管外科専門医
新井洋輔
　外科専門医

浅井英嗣

外科専門医

心臓血管外科専門医

大場淳一

日本外科学会認定医・指導医

日本胸部外科学会認定医・指導医

外科専門医

心臓血管外科専門医・修練指導者

循環器専門医

集中治療専門医

救急科専門医

【新体制以降の手術件数】

	手術総数	うち人工心肺（＋）	人工心肺（－）
2014 年（7 月～）	77	53	24
2015 年	125	86	39
2016 年	119	80	39
2017 年	131	84	47
2018 年	137	85	31
2019 年	155	82	73
2020 年	126	93	33
2021 年	176	92	41

【2021 年 1 月 1 日～12 月 31 日の手術内訳】

麻酔科依頼手術数（PICUでの手技含む） 176例

心臓手術総数（専門医業績としてカウントされる手術）： 133例

人工心肺使用例: 92例

人工心肺非使用: 41例

心臓手術以外： 43例

病院死亡 6例

① 4か月♀単心室，共通房室弁逆流→Damus-Kay-Stansel手術，両方向性Glenn手術，共通房室弁形成術．術後に間質性肺炎発症．ECMOで管理中に脳出血．術後1か月で死亡．

② 2か月♂左心低形成症候群→Norwood手術．周術期に脳出血，敗血症．術後17日で死亡．

③　4日♂18Trisomy，大動脈縮窄症，心室中隔欠損症→両側肺動脈絞扼術．非外科的感染症．術後17日で死亡．

④　2か月♂ファロー四徴症→modified Blalock-Taussig手術．紹介元に転院後心不全で死亡．

⑤　1日♀大動脈縮窄症，large VSD→大動脈弓修復，肺動脈絞扼術．術後心不全ECMO導入．心不全で術後3か月死亡．

⑥　3日♀無脾症症候群，単心室，肺動脈閉鎖，総肺静脈還流異常症，肺静脈閉鎖→総肺静脈還流異常症手術(sutureless)，右室肺動脈シャント．ECMO導入．心不全で術後10日死亡．

当科は循環器内科の絶大なご支援のもと順調に症例を重ねている．北海道の子どもたちのために良質な医療を提供していくとともに，心臓血管外科専門医をめざす若手医師によい修練を提供できる体制と仕組みを整備して，将来の子どもたちのためにも力を尽くす所存である．

（大場　淳一）

(2) 小児眼科

2021 年は眼科医 1 名，視能訓練士 1 名で業務を行っている．2 階病棟の訓練入所中の患者受診も多いことから作業療法などとの連携もはかりながら，入所訓練中の患者様の視覚発達管理についても協力して業務を行っている．今年は新型コロナウイルス流行の影響で，緊急性の低い眼科に関しては診療抑制により外来受診が減少した．診療内容は例年通りでは対応しており，特に発達遅滞の症例の屈折異常であっても，遠視や乱視による弱視は，行動改善の見込みがあるので，眼鏡装用が可能と判断された場合は，積極的に眼鏡装用をお勧めしている．弱視治療目的の眼鏡は療養費支給対象になっているが，手続き等が理解しにくいため，眼鏡処方時には資料をお渡しし，十分に説明をしている．近年ダウン症候群の遠視性乱視の受診が多い．また，内斜視や片眼の強い乱視による弱視や，外斜視で複視を自覚する場合などには，斜視弱視訓練を行っている．

一方，担当の齋藤が今年度で定年となるが次の年度の体制が決まらないため，術後長期の経過観察が必要となる斜視手術などを積極的には推奨しない方針としたため手術目的の入院，手術は非常に少なくなった．当センターでの体出生体重児の分娩はまれで，心疾患や外科疾患で転院してきた場合も未熟児網膜症は少数で，治療例はなかった．1～12 月の手術実績は斜視 4 件 7 眼であった．

（齋藤　哲哉）

(3) 小児形成外科

札幌医科大学形成外科より月 1 回非常勤医師が派遣され，外来及び入院中の患児を診療している．2021 年の外来延べ患者数は 105 名であった

（編集部）

13　特定機能周産期母子医療センター

(1) 新生児内科

新生児病棟は 2019 年末より改築工事に着手し 2020 年 11 月にフルオープンに至った．NICU12 床，GCU12 床いずれも認可病床として運用している．新生児内科スタッフ医師は 4 名であった(浅沼秀臣，石川淑，中村秀勝，大野真由美)．小児科専攻医または 後期研修医（ローテーター医師）が 1 名配置され，合計 5 名の体制で診療にあたった．

新生児病棟の入院数は 132 例であった．改築工事が終了したのち，入院症例数は増加している．体重別では，1000g 未満 7 例（5.3%），1000g～1499g 7 例（5.3%），1500g～2499g 30 例（22.7%），2500g 以上 88 例（66.7%）．主要な担当診療科ごとの症例数を見てみると，新生児内科 55 例（41.7%），小児循環器科 38 例（28.8%），小児外科 25 例（18.9%），小児脳神経外科 13 例（9.8%）だった．

当センターの特徴として，他の周産期センターにおいて，極低出生体重児の管理中に外科的加療が必要になった児（動脈管開存症，脳室内出血，消化管穿孔など）や，胎児期あるいは新生児期に先天性形成異常や外科的疾患が疑われる児について搬送をうけ集中管理を行っている．特に重症先天性心疾患と脳神経外科疾患については，全道の症例を集約している．術後超急性期の管理を PICU にて行ったのちの急性期管理と退院までの管理さらに，退院後の発達発育のフォローアップを当科で担当している．

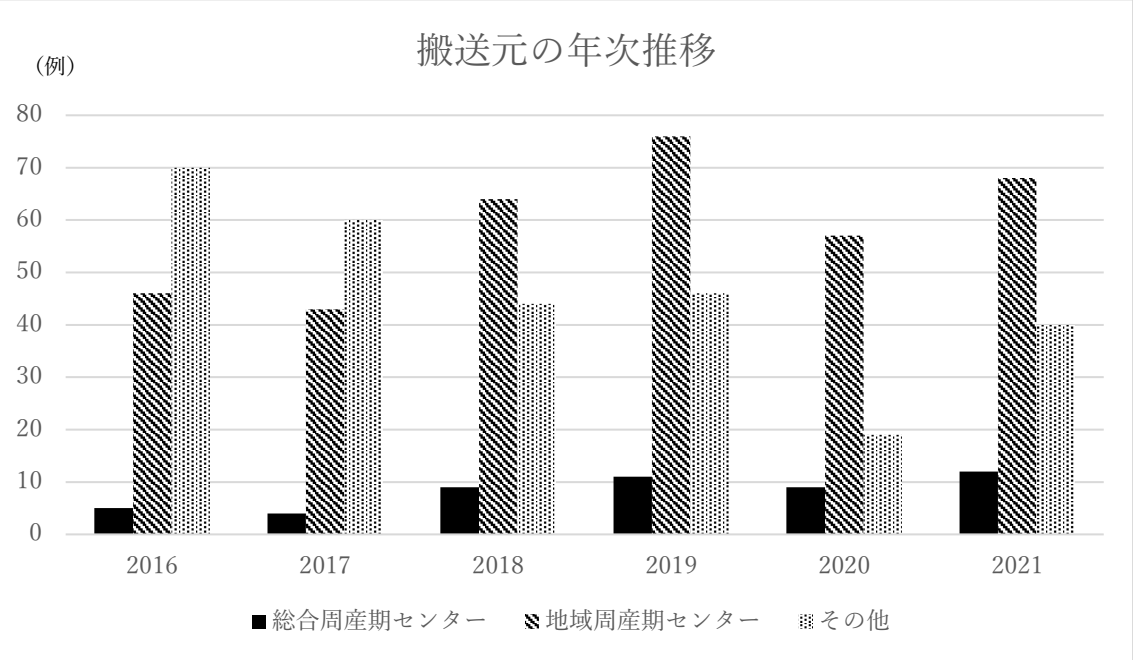
改築工事中は内科的疾患の症例を，お断りせざるを得ない状況も多少あったが，今年はこれまで通り搬入を受ける体制となったため，新生児内科として担当する新生児の搬送例が増加した．例年，お断り例が年間 20 例以上に達していたが，今年は 8 例のみであった．改築後，より多くの搬送依頼に応えることができた結果と考えられる．

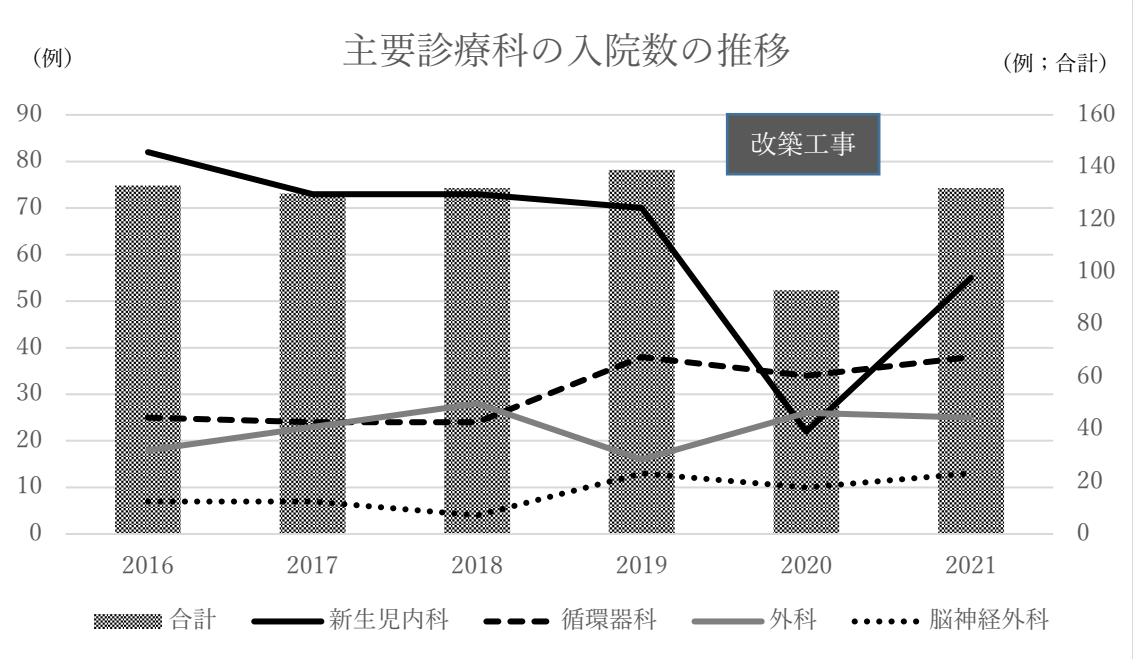
今年は総合周産期母子医療センターからの搬送は 12 例，地域周産期母子医療センターからは 68 例であった．近隣の産科医療機関からの搬送については工事中 19 例だったが，今年は 40 例と工事以前の状況に戻った．

各周産期母子医療センターからの搬送例については，当センターにおける急性期の治療が一段落したところで，積極的に搬送元へ戻し搬送を行っている．今年は 22 例であった．民間救急車 14 例，メディカルウイング 4 例（北海道航空医療ネットワークとの共同研究運行）であった．戻し搬送は各周産期母子医療センターの方々のご理解がなければ成り立たない．この場を借りて関係の皆様に深謝申し上げたい．

残念ながら，本年の死亡例は 6 例であった．内訳は 18 トリソミー，13 トリソミー，左心低形成症候群，大動脈縮窄複合，総肺静脈還流異常，交通事故後の出生による低酸素性虚血性脳症であった．

本年も昨年に引き続き新型コロナウイルスのパンデミックが大きな問題になった．新生児病棟は，たとえ治療中であっても，ご家族と子どもたちの絆を深めるべき場所であるはずだが，面会制限を設けざるを得なかった．パンデミックの終息を祈るばかりである．





（浅沼　秀臣）

(2) 産科

＜診療体制＞

2016 年 4 月より再開

2017 年 4 月より常勤医 1 名，非常勤医 1 名＋札幌医科大学より不定期出張（主に月 1～2 回週末）

＜診療実績＞

当センターの特殊性（主に小児センターでパンデミック感染症の受け入れ困難）があり，2020 年同様，都度都度診療制限を余儀なくされた 1 年だった.

・外来診療　　年間実患者数：235 名

当センターの産科は，特定機能周産期母子医療センターとして主に新生児治療が必要な胎児疾患を中心に診療を行う役割であり，外来診療でも胎児異常疑い症例の精査依頼（新患 12 名）に対応している.

この他，100 例あまりの胎児超音波スクリーニングを行った（新患 83 名）.

尚，当センターの事情から療育児の婦人科診療も行っている（新患 3 名）.

・入院診療　　年間実患者数：13 名

2021 年は 19 名の分娩（帝王切開分娩）があった.（防音不備などで使用できない分娩室の改築が一応済んではいるが，経腟分娩再開への準備は，コロナもあり今しばらく難しい状況である）

分娩例の内訳（出生前診断）は，胎児脳神経外科疾患 8 例（うち脊髄髄膜瘤を伴う例 6），心疾患（ほぼ重症例）12 例（重複有）.

これらの居住地は札幌市外 8 例（旭川，恵庭，帯広，北見,，標茶，函館，美深，森）で，広域な北海道の周産期医療連携に一定の貢献ができたと考えている．直接の紹介元は北海道大学や札幌医科大学などであった.

さらに当科の役割の一つとして，新生児治療のため当センターに出生早期に搬送された児の母児分離を防ぐことがある.

2021 年は 15 名の産褥母体入院を引き受け産後の入院管理を行った.（経腟分娩可能症例は札幌医科大学，北海道大学へ二次紹介し，産後母体引き受けも行っている）

感染症対策や当科の人的事情などで診療に制限がある事を関連各位にご了解賜りながら，今後も北海道の周産期医療により寄与していきたいので，産褥母体の引き受けなどを含め，遠慮なく相談してほしい.

（石郷岡　哲郎）

14　総合発達支援センター

(1) リハビリテーション小児科

リハビリテーション（以下リハと略す）小児科は，多様化・重複化している障害の軽減や機能維持および発達促通を目的に，医療部門との連携を図りながら超早期よりリハを提供している．当科の主な業務は，外来や入院診療（親子入院，本入院，ショートステイ）におけるリハ計画の作成と実践指導である．肢体不自由児の早期治療の入り口の仕事として早期診断をことに大切にし，児の今必要な治療を的確に判断しリハ処方・装具治療・手術の適応についてリハ整形外科と密接に関連して診療を行っている．当科は病院管理室と保健福祉部の両方に所属し，札幌医大リハビリテーション科のリハ専門医教育関連施設にもなっており教育および福祉との連携も行っている．さらに道立専門支援事業に加えコドモックル独自事業として各支庁の発達支援センタースタッフ対象の地域療育支援事業などの出張や見学研修受け入れ各種講演活動なども実施している．リハ小児科の医師は，小児科医であると同時にリハビリテーション科医でもある．小児における医学的リハビリテーションを提供する施設として，北海道での拠点的施設であるとの矜持を持って，多岐にわたる活動を行うよう努めている．

1）外来診療

月・水・金曜日は午前/午後，火・木は午前に外来を行っている．2021 年 1 月から 12 月までの外来延べ人数は 5079 人（20 年は 4700 人，19 年は 4603 人）で，新規の紹介患者は 295 人（20 年は 289 人）であった．各種医療機関や保健センター，発達支援センター（通園センター），教育機関などからの紹介が多い．新規の紹介患者 295 人中 109 人（37%）は院内からの紹介である．5079 人のうち疾患別では知的障害（857 人），染色体異常（780 人），発達障害（745 人），脳性麻痺（659 人），運動発達遅滞（301 人），言語発達遅滞（240 人），二分脊椎（93 人）の患者が多く，脳炎脳症後遺症（79 人），神経筋疾患（75 人）頭部外傷後遺症（44 人）等がそれに続く．複数の障害が重複している児も多いため，姿勢の問題，摂食嚥下や排泄自立課題，コミュニケーションや多動，学習障害などの発達課題を有する児童が増加している．2021 年もコロナ禍の影響で外来診療も制限を要した時期があったが，最終的には例年を越える外来患者数であった．

2）入院診療

①　療育部門（児童福祉法に基づく医療型障害児入所施設）

ア）親子入院

発達の遅れや障害のある乳幼児と保護者が一緒に入院し，発達に合わせた療育方法や遊びを学び，家での生活に活かしていくための入院である（20 床）．全室個室対応となっており，専用のリハ室を整備している．主に午前中はリハが，午後には講義などが行わる．2021 年もコロナ禍の影響で親子入院そのものが開催できないことや途中

で中止となることもあった．入院期間や参加人数に制限を加えるなどコロナ以前とは大きく異なるプログラムでの開催となっている．コロナの流行状況に合わせて施行錯誤を繰り返しながらの開催が現在も続いている．そのような状況下での親子入院であったが，2021 年の総数は延べ 217 組（20 年は 185 組，19 年は 222 組）であった．疾患別では脳性麻痺（35 人），染色体異常（29 人），知的障害（40 人），運動発達遅滞（28 人），発達障害（15 人）が多く，言語発達遅滞（7 人），脳炎脳症後遺症（6 人），二分脊椎（2 人）等がそれに続く．新生児医療の進歩により，軽症の脳性麻痺児（GMFCS 1～2 レベル）と重症心身障害児（GMFCS 5 レベル）の二極分化があり，それぞれにリハ・ニードが異なっている．脳性麻痺児はかつて入院数の半数を占めていたが，近年は 20%前後で推移し，2021 年は約 16%（20 年は 19%）となっている．

イ）本入院

障害のある幼児や学童が一定期間保護者から離れて入院し，日常生活動作の向上などを目的に，併設の手稲養護学校に通学しながらリハを行っている．病棟は，おもに整形外科治療を有する子供達を対象とした医療病棟 40 床と，粗大運動獲得，日常生活動作確立など社会的自立を目的とした生活支援病棟 50 床とで構成されている．併設養護学校には幼稚部から高等部まであり，3 歳未満児に対しては保育も行われており，教育面にも配慮した環境が整っている．リハ小児科医は主に生活支援病棟に入院している患児を主治医として担当し，医療病棟の患児についてはリハ整形医師のサポート的診療を行っている．2021 年に新たに生活支援病棟に本入院した児童は 278 人（20 年は 277 人，19 年は 281 人）であった．2021 年もコロナ禍の影響で入院患者の減少が危惧されたが，最終的には例年同様の入院患者数であった．疾患別では知的障害（49 人），脳性麻痺（39 人），染色体異常（38 人），発達障害（21 人），運動発達遅滞（19 人）が多く，言語発達遅滞（7 人），脳炎脳症後遺症（7 人），神経筋疾患（5 人）等がそれに続く．本入院総数のうち幼児の占める割合は約 1/4 であり低年齢児童が増加している．本入院においても脳性麻痺児はかつて約半数を占めていたが，近年は 20%前後で推移していて 2021 年は 14%（20 年は 14%，19 年は 19%）であった．相対的に発達障害・知的障害の児の本入院が増えてきている．

② 小児病院部門（急性期病棟リハ）

3 階の医療部門（NICU，新生児，内科系，外科系，PICU などの病棟）に入院中の患児で，急性期リハが必要な方の診療を行っている．哺乳に関する課題や発達の問題，さらにリラクゼーションや長期臥床に対する変形拘縮予防のための姿勢管理，呼吸器疾患の患児への呼吸理学療法等が主なものである．

3）専門支援事業および地域療育支援事業・療育キャンプ

北海道保健福祉部の仕事の一つとしての専門支援事業に加え，コドモックル独自事業

として地域療育支援事業を行っている．支援事業では道内の各発達支援センターに職員を派遣し，スタッフ指導や療育相談などを行っている．圏域は旭川療育センターと北海道を二分し道南・道央を中心に奥尻など離島にも支援を行っており，受け入れ研修も同時に行っている．地域療育支援事業では自閉症スペクトラムやADHDなどの発達障害や，知的障害などコミュニケーションや精神発達に課題を有する子どもに関する相談が多い（約6割を占める）．北海道肢体不自由児者連合会（親の会）が主催する療育キャンプに関しても，計画の段階から親の会の方々と協働して開催に関わり，専門的な立場から地域に暮らす肢体不自由児の診察を行っている．これらの支援事業を契機に当院への受診につながることも多い．2021 年もコロナ禍の影響で従来のような支援事業は出来ていない．療育キャンプの多くは 2 年連続で開催中止となっている．また外務省からの依頼で協力してきた北方四島医療支援促進事業もコロナ禍の影響で途絶えてしまっている．これらの事業は当院の大切な役割のひとつと考えられており，今後もコロナの感染状況などを見つつ規模の見直しや修正を行いながら，可能な限り支援事業の活動も継続して行きたいと考えている．

（堀田　智仙）

(2) リハビリテーション整形外科

リハビリ整形外科では，小児のリハビリテーションと小児整形外科を専門として診療を行っている．

当センター勤務が15年目となる藤田裕樹医長と札幌医大整形外科教室から派遣された卒後8年目かつ専門医取得後の中橋尚也医長で診療・治療に当たった．札幌市子ども発達支援総合センターの松山敏勝医師が週2回の外来診療応援に来ていただいた．

診療のスケジュールは，月，水，金曜日の外来診療，火，木が手術日となり，手術や各種検査を行っている．また病棟回診，カンファレンスは毎週月曜日に医療病棟で行っている．

通常業務とは別に毎週火曜日と金曜日の週 2 回 8 時より英文テキストブックの抄読会を行い，LOVELL and WINTER’s Pediatric Orthopaedics 8th ed. (2020)を要約している．毎週木曜日には gait lab カンファレンスを行い，3 次元歩行解析データの評価を行っている．

1) 外来診療について

主な診療内容は

① 小児の整形外科疾患に対する診察，検査，手術，ギプス治療など

② 車いすや装具などの処方，適合判定

③ リハビリの処方（理学，作業，言語聴覚療法）

④ 身障児・者の各種障害判定や福祉書類の作成

などが主な業務である．

2021 年の新患数は 138 名（前年 175 名）であった．

2）入院診療について

手術治療の対応は主に医療病棟で行っている．2021 年の麻酔科管理での手術及び検査処置件数は 121 件（前年 133 件）であった．

3）道立施設等，専門支援事業および移動療育センター事業

今年度は夏の室蘭，登別療育キャンプに中橋尚也医師が参加し，診療にあたった．

（藤田　裕樹）

(3) 小児精神科

1）　小児精神科の診療業務内容

心の発達の問題，症状をもつ子どもは増加しており，札幌市内では児童精神科が増えてきている．当科は，本道唯一の小児総合病院における精神科として，他施設とも機能分担しながら，以下の 3 つを業務の柱としている．

① 幼児，学童期の発達障害，精神疾患の診療：札幌市や周辺市町村の子どもの心の診療である．幼児ではことばの遅れや対人関係の問題を主訴とした発達障害，学童ではそれに不登校や強迫などの神経症が重なった子どもが多い．外来で診察・評価と治療（薬物療法，遊戯療法，言語的精神療法，家族療法，作業療法，言語療法，グループセラピーなど）を行う．

② リエゾン・コンサルテーション：慢性疾患やさまざまな障害で他科診療中の子どもと家族の心の診療である．親子入院をはじめとした入院での診療や，NICU などでの他科スタッフとのカンファレンスなどを通じて，身体疾患や障害をもちながらも，子どもと家族が地域で健やかに発達し生活していくための支援を行っている．

③ 道立施設専門支援・地域療育支援：道央圏の市町村の発達支援センターなどの療育施設を訪問し，精神発達の問題をもつ子ども（主に幼児）を実際に診療し地域スタッフとのカンファレンスを行いながら，地域のスタッフが親子を支援していくためのバックアップを行う事業である．

2)外来診療での実績

① 外来診療（リエゾンコンサルテーションも含む）における新規患者の内訳

新患数は 333 人を数えた．年齢構成は，乳幼児 195 人，小学生 108 人，中学生 27 人，高校生以上 3 人と，乳幼児学童が多くをしめた．初診時診断を ICD-10 で分類すると，F0 の器質性障害（脳症後遺症，意識障害など）が 4 人，F2 の気分障害が 3 人，F4 の神経症圏（社会恐怖症，適応障害，解離性障害，身体表現性障害など）が 30 人，F5 の生理的障害（摂食障害，睡眠障害など）が 2 人，F7 の知的障害が 31 人，F8 の

心理的発達の障害が 168 人（広汎性発達障害（知的障害，精神病症状，神経症症状を合併したものも含む）が 164 人，その他 4 人），F9 の行動および情緒の障害（多動性障害，分離不安障害，チック障害など）が 49 人，その他 46 人であった．

② 道立施設専門支援・地域療育支援

今年は，コロナ禍で中止になることが多く，10 市町村に対し，10 回の支援にとどまった．

（才野　均）

(4) リハビリテーション課

リハビリテーション課の職員構成は，理学療法士 15 名，作業療法士 9 名，言語聴覚士 8 名，視能訓練士 1 名，専門主任（受付担当事務）1 名の計 34 名で構成されている．

新生児期から，医療的視点と，発達を促す療育的視点の両面から小児リハビリテーションを実践している．

また，子どもとその家族が地元で生活を送りながら，より効果的に発達を促すことができるよう，地元の病院・施設・発達支援センター・学校等と連携を密にしながら取り組んでいる．

その他，小児リハビリテーションの専門機関として，地域支援（道立施設専門支援事業，地域療育支援事業，療育キャンプ）や，北海道内の療育関係施設・病院のリハ専門職の受入研修，リハビリテーション専門職養成機関等での講義，見学実習・臨床実習の受入等も積極的に行っている．

1) 理学療法係の業務

小児中枢性疾患，小児整形外科疾患，運動発達遅滞，周産期からの新生児期を含めた急性期から成人までを対象に理学療法を実施している．理学療法は運動療法を中心に呼吸理学療法，物理療法，水治療法などを行っている．個々の能力・障害を検査・評価してプログラムを組み，多職種とのチームアプローチにより成果を上げている．補装具・車椅子・座位保持装置などの作成にも関与している．

子ども達が継続してリハビリを行えるように，保護者や地元の機関とも連携し環境整備することも重要視している．

2) 作業療法係の業務

上肢機能や日常生活動作および知覚・認知発達に困難さを抱える小児中枢性疾患を中心とした発達障がい全般を対象とし，様々な作業活動を用いて一人一人の発達課題を考慮しながら作業療法を実施している．

OT 室での指導だけではなく，病棟生活場面での直接指導や，社会スキルトレーニング（SST）も行い，生活に根ざした作業療法を目標に実践している．また併設する手稲養護

学校と連携し，学校生活に欠かせない教科学習の課題等にも取り組んでいる．

精神科外来では，多職種と連携しながらチーム診療とグループセラピーを実践している．

3）言語療法係の業務

小児のコミュニケーション及び言語発達障害全般，聴覚障害，摂食嚥下障害，吃音，失語症などを対象にし，言語聴覚療法を実施している．

入院・外来共に言語評価とリハビリテーションの直接的指導だけでなく，家庭療育のための保護者指導，地元の通園や学校などとも連携し言語環境の整備についても重要視し取り組んでいる．

摂食評価・指導は，多職種とのチームアプローチで実施している．耳鼻科外来では聴覚評価と聴能・補聴器指導を行っている．

精神科外来では，多職種と連携しながらチーム診療とグループセラピーの実践を行っている．

4）視能訓練士の業務

斜視・弱視を主とする小児眼科疾患全般を対象としている．

視機能の評価として視力・視野・屈折・調節・色覚・眼圧・眼位・眼球運動・瞳孔・涙液等がある．評価に基づき，視能訓練（弱視視能訓練・斜視視能訓練）や患者指導，他職種連携を実践している．患者指導では光学的視能矯正（眼鏡装用）に重点をおいており，保護者に対して治療用眼鏡の装用目的や眼鏡作成時の注意点，日常生活における留意点等の総合的な指導を実践している．

他職種連携においては，視機能に関する情報共有や合同評価により，効果的なリハビリテーションを支援している．

5）施行件数

	入院				外来			入院および外来	
	個別リハ			退院指導	個別リハ			聴力検査補聴器調整	検査
	PT	OT	ST		PT	OT	ST	ST	CO
1 月	1,191	479	288	46	346	267	181	84	132
2 月	1,069	393	239	25	351	248	154	73	95
3 月	1,329	519	289	30	465	351	229	109	133
4 月	1,383	476	319	42	359	246	169	91	117
5 月	1,013	321	224	21	201	110	79	40	67
6 月	1,421	544	399	34	358	293	192	78	118
7 月	1,206	461	301	37	356	271	167	95	111
8 月	1,250	502	304	41	359	282	165	121	126
9 月	1,210	477	351	26	350	249	163	86	117
10 月	1,388	579	382	54	381	257	165	90	139
11 月	1,329	508	380	40	334	270	181	89	114
12 月	1,219	505	341	39	331	257	176	78	108
計	15,008	5,764	3,817	435	4,191	3,101	2,021	1,034	1,377
合計	25,024				9,313			2,411	

＊外来作業療法・外来言語療法には「精神科外来」も含まれる.

6）道立施設専門支援事業，地域療育支援事業による地域支援

PT4 ヶ所，OT6 ヶ所，ST3 ヶ所，CO4 ヶ所の市町に支援を行った.

7）地域療育支援事業受入（現場）研修

リハビリテーション課関連では 6 ヶ所の市町，10 名の受入研修への対応を行った.

8）地域連携セミナーにおける講師派遣

養護学校が企画した講習会の講師依頼 1 件について CO が Web 対応した.

9）研修会・講習会の実施

9 月 11 日（土）に小児リハビリテーション研修会を Web により開催した．参加人数は 90 名であった.

10）肢体不自由児者父母の会主催の療育キャンプへの派遣（リハビリテーション課主管）

7 月 29 日（木）の登別療育キャンプ，7 月 30 日（金）の室蘭療育キャンプには，それ

ぞれリハ整形外科医１名，理学療法士２名を派遣した．翌年１月６日（木）の伊達療育キャンプには，リハ整形外科医１名，理学療法士１名，作業療法士１名，言語聴覚士１名を派遣した．年度当初予定されていた函館療育キャンプは COVID-19 感染対策のため主催者側の判断で中止となった．

11）実習生の受入

	養成校（校）	見学実習（人）	評価実習（人）	総合（人）	グループ（人）	延実日数（人数×対応日数）
PT	12	11	0	18	100	296
OT	9	5	1	9	0	398
ST	3	0	0	5	0	115
CO	1	0	0	4	47	148
計	25	16	1	36	147	957

受入校（13 校）

12）療育支援事業，実習生以外の専門研修・見学等の受け入れ

大学生１名に対して施設見学の受入を行った．

（藤坂　広幸）

15　循環器病センター

(1) 小児循環器内科

コロナ禍が続いた2021年の診療実績は，ほぼ平年並みで推移した．実績に関連する出来事としては，開設以来稼働していた心血管造影装置の更新があり，2021年4月末より6月1日まで心臓カテーテル検査を停止した．この間，院内外の関係者には患者差配等で有形無形のご協力を頂いた．この場を借りて感謝申し上げたい．幸いにも工事中に他院へ緊急カテーテルを依頼するような事態が生ずることはなく，年間実績も停止期間に関わらず例年通りの症例数を維持することが出来た．小児循環器用に開発された新装置は旧機種に比べ大幅な被ばく低減を実現しており，より低侵襲な検査と治療の実現が期待される．

近年存在感を増している心臓MRIの実績は右肩上がりである．2021年には手探りながら胎児心臓病のMRIの試みも始まり8件の検査を行った．今後診断の精度を高め，出生後の治療成績向上に寄与できればと考えている．

手術数は，コドモックルが非コロナ重症例の治療に特化する方針を2021年も堅持することができたこともあり概ね例年通りであった．一方で集約された症例はより複雑化・重症化しており，PICUでのECMOを始めとする体外循環管理が珍しくない．その結果，心血管作動薬を持続しての一般病棟への退室が常態化している．これは10年前では考えられなかったことである．片や一般病床は新型コロナウイルス感染予防をしながらの運用を余儀なくされ，ときに柔軟性が失われる機会が散見される．PICU滞在中からのリハビリ介入によって早期退院を目指すとともに積極的に後方搬送を活用しての病床運用に努めている．

2021年も新型コロナウイルス感染が終息しない中，院内PCRや抗原検査が確立され“with コロナ”での診療体制が継続された．循環器診療において新型コロナウイルス感染を理由とした健康被害は確認されていないことは幸いであった．

診療体制は，外来が火曜日を名和智，水曜日を澤田，木曜日を高室が担当している．症例の集約化に伴い外来予約が取りづらくオーバーフローが常態化している．循環器外業務では総合診療科外来を，高室が水曜，澤田が木曜に担当している．入院は後期研修ローテイターが指導医の指導下に担当している．心臓カテーテル検査は月・金に2-3件のペースで施行し，小児施設としては道内唯一である経皮的ASD閉鎖栓，PDA閉鎖栓の認定施設も維持している．北海道の子どもたちが全国標準の治療を受けるため本認定の維持は当院の大切な使命の一つであると考えている．

学術的業績も中心的学会はオンラインが多くなり発表を継続している．2021年には3本の論文を発表したが，うち2編は共著であり，筆頭著者の論文を増やす努力を継続したい．

今後も道内3医育大学，各医療機関と密に協力して北海道の小児循環器診療における当センターの役割を果たすべく，断らない医療・よりよい成績・後進の育成を心掛けてゆ

きたい.

		2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
1)スタッフ						
小児循環器医数(総数)		5人	4人	6人	5人	5人
	常勤	4人	4人	5人	5人	4人
	非常勤	1人	0人	1人	0人	1人
	上記のうち小児循環器専門医	3人	3人	5人	3人	3人
小児心臓外科医師数(総数)		3人	3人	3人	4人	4人
	常勤	3人	3人	3人	4人	4人
	非常勤	0人	0人	0人	0人	0人
	上記のうち心臓血管外科専門医	2人	2人	2人	2人	2人
生理検査技師(総数)		2人	3人	3人	3人	3人
	常勤	2人	3人	3人	3人	3人
2)患者						
新規紹介患者(総数)		**153例**	**217例**	**152例**	**144例**	**126例**
入院患者	(循環器)	**343例**	**393例**	**548例**	**362例**	**394例**
	(循環器以外)	13例	5例	5例	5例	0例
3)検査, 治療						
心電図(総数)		**2785件**	**2939件**	**3293件**	**3072件**	**2877件**
	心電図:負荷なし	2607件	2754件	3073件	2905件	2669件
	トレッドミル運動負荷試験	5件	7件	6件	10件	2件
	マスター運動負荷試験	75件	86件	74件	42件	45件
	ホルター24時間心電図	96件	89件	140件	115件	144件
	ヘッドアップチルト試検	2件	2件	0件	0件	5件
	起立負荷試検	0件	1件	0件	0件	7件
心エコー検査(総数)		**3389件**	**3235件**	**3263件**	**2886件**	**2876件**
	経胸壁心エコー検査	3293件	3132件	3129件	2785件	2791件
	経食道心エコー検査	96件	103件	134件	101件	85件
心臓カテーテル検査、治療(総数)		**143件**	**152件**	**182件**	**177件**	**169件**
	患者年齢分布					
	※28生日未満	0件	0件	2件	7件	2件
	※28生日～20歳未満	138件	138件	175件	159件	156件
	※ 20歳以上	5件	5件	5件	11件	11件
	カテーテル治療総数	**28件**	**35件**	**57件**	**49件**	**35件**
	PDA閉鎖術	5件	9件	16件	10件	8件
	ASD閉鎖術	7件	7件	17件	7件	6件
心臓CT検査		**59件**	**90件**	**96件**	**144件**	**138件**
核医学検査(総数)		**15件**	**6件**	**4件**	**18件**	**2件**
	安静時心筋血流シンチ	0件	0件	0件	0件	0件
	運動負荷心筋血流シンチ	11件	5件	3件	18件	0件
	肺血流シンチ	4件	1件	1件	0件	2件
心臓MRI検査		**27件**	**69件**	**110件**	**158件**	**189件**
						胎児心疾患8件
4)外科治療						
手術件数(総数)		**131件**	**137件**	**133件**	**124件**	**132件**
	開心術総数	84件	85件	86件	93件	91件
	非開心術総数	47件	52件	47件	31件	41件

(高室　基樹)

(2) 小児心臓血管外科 (第二外科部参照)

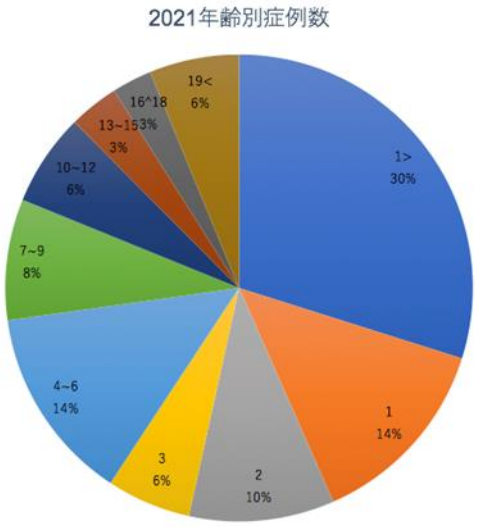
16　手術部

(1) 手術部門・麻酔科

2021 年の麻酔症例数（手術・検査を含む）は 1038 件であった．COVID-19 の影響で頭頸部手術の症例数が減少した影響が考えられる．全体としては小児専門施設らしく 2 歳以下が半数以上を占め，新生児は 82 症例，最高齢は 41 歳であった．部門としては安全かつ患児および保護者が安心できる周術期管理を目指し，麻酔科医と手術室スタッフで毎朝症例カンファレンスを行い情報共有につとめている．

手術症例

心臓外科	158
小児外科	235
循環器科	177
泌尿器科	156
耳鼻	73
整形外科	121
脳外科	80
眼科	5
形成外科	4
内科	10
産科	19



麻酔症例数:1038件

（名和　由布子）

(2) 集中治療科（PICU）

PICU の 2021 年の年間入室者数は 202 例であった．新生児 35 例，乳児 69 例，1-14 歳 80 例，15 歳以上が 18 例であった．診療科としては心臓血管外科 104 例，脳神経外科 22 例，循環器内科 11 例，総合診療科 6 例，神経内科 5 例，耳鼻咽喉科 3 例，形成外科 2 例，新生児科 1 例であった（複数科の関与する症例あり）．人工呼吸器の使用は 132 例，血液浄化 6 例，ECMO 使用 6 例であった．

スタッフは 2021 年 4 月から，麻酔科の常勤枠を使用し，酒井が PICU 専従となった．心臓外科術後の入室症例が多く，当直のほとんどは酒井および心臓外科チームが行っていた．北大病院 ICU における成人のコロナ患者収容をうけて，当センターでの心臓手術の症例数および重症度があがり，周術期に長期管理になる症例が増加している．

看護スタッフは少ない人数ながら，患児および家族にも配慮した看護を行っており，繁忙する時もコミュニケーションをとりながら安全かつ質の高い看護の提供を目指してい

る．重症患者の理学療法士による評価・介入は非常に重要であり，患児に合わせたきめこまやかなプログラムを提供しており，早期リハビリテーションにも積極的に取り組んでいる．また，多くの薬剤を使用する部署であるため，薬剤師の参入により，抗生剤や抗けいれん薬をはじめとした薬剤の安全な使用につながっている．

朝・夕に医師・看護師・理学療法士・薬剤が参加して他職種カンファレンスを行い，重症かつ多くの診療科が関わる症例ではケースカンファレンスを行い，情報共有をしている．現状は専従医が 1 名であるが，医師の働き方改革や小児循環器症例の集約化の必要性などから小児集中治療科の専従医の充足，周辺機器の充実がもとめられる．

（名和　由布子）

(3) 臨床工学部門

1）総括

2020 年から医療ガス安全管理責任者，医療機器安全管理責任者を拝命し，2 年が経過した．2020 年 4 月からは 5 名体制となり臨床業務のみならず，施設基盤や医療機器の安全点検の更なる強化が可能となった．2021 年は新たに 2 機種の医療機器の法定点検を外部委託から臨床工学科に切り替えることで費用削減や効率的な点検スケジュールが可能となった．また地域連携課の兼務により在宅人工呼吸器をはじめとする在宅医療機器の管理，ご家族への安全使用のための説明を開始した．COVID-19 感染予防のため，在宅勤務や Web 会議を活用した．今後も，施設基盤や医療機器を強化するだけではなく，現場での運用方法にも着目し，安全で効率的な病院インフラを提供していきたい．

2）基本理念・基本方針

臨床工学科の基本理念

「私たちは，安全で高度な医療機器・医療技術を通じて，良質な医療・療育を提供し，将来を担う子どもたちの健やかな成長・発達を支援します.」

3）臨床工学科基本方針

① 子どもや家族の人権を尊重し，安全で高度な医療機器・医療技術を継続的に提供します.

② 子どもの立場に立って，医療・療育の施設基盤を支えます.

③ 教育・研修・研究活動に力を注ぎ，人材育成と専門職業人として質の向上を図ります.

④ 多職種と連携し，子どもたちの地域での在宅生活を支援します.

⑤ 北海道職員として，医療技術の質と安全を担保しながら業務の効率化と経費削減に努めます.

4）体制

5名で24時間緊急対応できるように業務を遂行している.

5）業務実績

① 医療機器の中央管理化（超音波診断装置，麻酔器）を拡大し，点検方法や期間を添付文章に遵守した.

② 生命維持管理装置をはじめとする高度管理医療機器を計画通り保守点検した.

③ 2022年度の備品購入計画を会計係と策定した.

④ 北海道科学大学非常勤教員を兼務し2年生へ講義した.

⑤ 北海道ハイテクノロジー専門学校臨床工学科3年生へ非常勤講師として講義した.

⑥ BCP策定分科会に参加し主にインフラ部分を担当した.

⑦ 臨床実習を3学校11名受け入れた.

6）臨床業務実績

人工心肺業務95件，内視鏡関連業務79件，腹腔鏡下関連業務42件，脳外科関連業務22件，ペースメーカー関連業務42件，血液浄化業務2件，補助循環業務9例，アイノベント業務30例，バックトランスファー業務22件，経皮酸素濃度解析業務101件であった.

7）その他

第32回北海道臨床工学技士会（2021年11月14日Web）：赤井寿徳

第32回北海道臨床工学技士会（2021年11月14日Web）：萬徳円

（平石　英司）

17　放射線部

(1) 動向

放射線部は放射線技師 7 名体制で放射線診断部門と治療部門の業務を行っている.

2021 年に行った検査件数で前年と比較して,ポータブル(病棟)撮影で 415 件(108%), MRI 検査で 104 件（107%）増加し，また血管造影検査では装置更新入替のため 1 ヶ月ほど休止期間があったにもかかわらず心臓カテーテル検査と他の血管造影・検査の総計で 16 件（108%）の増加となった．しかしながら，診断部門全体としての総件数は，新型コロナウイルス感染流行による患者数の減少によって前年と比較して減少した．特に一般撮影件数の減少が顕著であった．また，今年は放射線治療の実績はなかった.

勤務時間外，休日の 24 時間緊急対応では，年間を通じて放射線技師の呼び出し当番体制を敷いている．時間外診療への対応件数は別表のとおりであるが，病棟での撮影，X 線一般撮影，X 線 TV 検査が主に行われている．また検査件数は少ないものの手術室での透視診断支援なども実施されている．MRI，心臓カテーテル検査の時間外対応については日勤帯の延長である場合がほとんどである．時間外業務の検査総件数は前年と比較して約 90 件（106%）の増加であった.

画質向上や放射線被ばく低減などの放射線技術面については，ウエブによる学会，研究会の積極的な参加により他施設との情報交換や非常勤放射線診断医（週 1 回）の指導や助言を仰ぎながら技術の向上に努めている．また，サービス体制の充実としては，放射線部内のリスクマネージャー１名と感染対策実務者１名が中心となって日常の業務の監修と整理にあたっている．これにより医療安全体制の充実はもちろんのこと衛生面でも医療関連感染対策の徹底を図っている.

このように放射線部内のスタッフ間の情報共有と相互のチェック体制を維持しながら日々安全で安心な検査業務を心がけている.

(2) 実績

一般撮影

部 位	人	件 数
頭頸部	359	969
胸腹部	3,965	4,402
体幹部	2,394	4,427
上肢	363	487
下肢	1,663	5,292
合 計	8,744	15,577

ポータブル(病棟)撮影

部 位	人	件 数
胸・腹部	4,895	5,370
その他	175	191
合 計	5,070	5,561

骨密度

部 位	人	件 数
腰椎(骨塩測定)	21	21
全身体組成測定	142	142
合 計	163	163

術中撮影

部 位	人	件 数
整形外科領域	51	51
他 の 領 域	61	64
合 計	112	115

X-TV

部 位	人	件 数
上部消化管	206	206
下部消化管	139	139
泌尿器領域	155	155
脳外科領域	34	34
整形外科領域	3	3
そ の 他	4	4
合 計	541	541

CT

検査の種類	人	件 数
単純CT	549	582
造影CT(*)	228	228
合 計	777	810
(*)心臓造影CT(再掲)	138	138

MRI

検査の種類	人	件 数
単純MRI	1,655	1,655
造影MRI	43	43
合 計	1,698	1,698

血管造影

検査の種類	人	件 数
循環器系血管造影(*)	170	170
他の血管造影・検査	44	44
合 計	214	214
(*)IVR (再掲)	33	33

RI

検査の種類	人	件 数
脳血流	1	3
全身骨	2	4
腫瘍	2	6
炎症巣	1	2
肺血流・肺換気	2	2
心筋	0	0
腎・レノグラム	99	198
その他	4	4
合 計	111	219

放射線治療

リニアック	0

コピー

用 途	人
センター用コピー	515
情報提供・情報開示	783
合 計	1,298
*開示請求 (再掲)	9

時間外撮影

種 類	人
ポータブル撮影	1,251
一般撮影	133
X-TV	23
CT	81
その他	35
合 計	1,523

(菊池 雅人)

18　検査部

(1) 動向

2021 年も，新型コロナウイルスに大きく影響を受ける一年となった．臨床検査業務委員会は，すべて書面開催とし，毎朝の朝礼も一旦中止，11 月の落ち着いた頃に再開した．例年の学生実習も中断を余儀なくされた．そのほかにも有形無形の影響を受けた．

さて，人事も大きく変化し，2020 年 12 月から岸技師が転入した．2021 年 3 月をもって，成瀬技師と平井技師が退官した．4 月からは，道立北見から森田技師が転入し，蒴出技師は全日の再任用となり，今野技師が科長に，長谷川技師が主査に就任した．病理担当の垣本技師は 4 月から全日の再任用であったが，5 月末をもって退職となった．

一般部門では，尿一般，生化学，血液などが例年よりも 1 割ほど件数が増加した．緊急検査の推移も同様であった．

生理部門では，脳波は横ばいか軽度減少傾向を見ている．しかし，今後は新生児の聴力検査の義務化などにより増加や需要増見込まれる．循環器検査は，ほぼ例年通りの件数であったが，今後は DPC 化に伴い，検査や手術の増加が想定され，業務負担増加が見込まれる．

細菌部門では，細菌学的検査が顕著に増加し，新型コロナの影響もあってか，時間外のウイルス検査などが増加した．新型コロナの抗原検査に加えて，PCR が急増し，2021 年には新しい新型コロナの機器が導入され，細菌部門の業務負担は増えている．

輸血部門は，件数はやや増加傾向だが，入院の制限などを考慮すると増加の割合は高く，手術などの影響で緊急検査も増えている．さらに，新型コロナの影響で血液の供給が先細りとなり，分割輸血も活用しているが，血液製剤の効率的な運用に苦心をしいられている．

病理部門では，垣本技師の退官により，長谷川技師がほぼ一人で業務をこなしており，将来的な安定した業務継承へ向けた計画が望まれる．動作解析のソフトや機器についても，動作が不安定になってきており，計画的な処置が望まれる．北海道が実施した新型コロナのワクチン接種事業では，高橋と木村が問診業務に協力した．Tumor board など，対面での合同カンファレンスの開催が著しく減少しているが，少人数で細かく話し合う機会を作るよう心がけている．また，5 月には札医大小児科と合同で，初のリモート CPC を開催した．

3 年前から医療法改正に伴う試薬管理記録，機器整備記録，マニュアル整備などの業務負担が増加したが，コンプライアンス遵守のために粛々とこれらを実施してきている．

精度管理や臨床検査業務委員会も継続して実施しているが，新型コロナだけでなく，管理的な業務の負担も増加してきている．

（高橋　秀史）

(2) 臨床検査部

外部精度管理実施状況

・日本臨床衛生検査技師会　臨床検査精度管理調査

2021 年 6 月実施　評価 A　220/226 件

・北海道臨床衛生検査技師会　臨床検査精度管理調査

2021 年 10 月実施　評価 A　39/40 件

・北海道臨床衛生検査技師会　臨床検査精度管理調査

2021 年 6 月実施（フォトサーベイ）　評価 A　39/42 件

部門別検査件数推移

部門	2019年	2020年	2021年
生化学的検査	206,722	201,237	213,701
免疫学的検査	21,029	19,943	19,597
血液学的検査	116,454	112,125	117,088
血栓・止血関連検査	8,422	11,207	12,245
尿・糞便等一般検査	64,294	59,738	68,813
輸血関連検査	4,874	4,720	5,431
細菌学的検査	11,870	10,974	14,064
病理学的検査	2,851	2,235	2,586
心電図	3,293	3,072	3,057
心エコー	3,255	2,890	2,838
その他のエコー	1,930	1,741	1,906
脳波	1,368	1,206	1,170
動作解析	390	405	419
ASSR	52	39	31
総件数	446,804	431,532	462,946

時間外緊急検査件数推移

検査項目	2019年	2020年	2021年
生化学的検査	19,410	19,894	22,376
免疫学的検査	1,625	1,385	1,722
血液学的検査	12,204	12,060	13,584
血栓・止血関連検査	1,818	2,413	2,805
尿・糞便等一般検査	1,463	1,256	1,952
輸血関連検査	530	535	589
インフルエンザ	163	154	168
RSウイルス	146	136	179
アデノウイルス	145	132	169
ヒトメタニューモウイルス	146	131	165
A群溶連菌	113	114	153
ノロウイルス	45	35	53
ロタウイルス	47	33	54
便アデノウイルス	40	28	53
新型コロナウイルス抗原		19	163
新型コロナウイルスPCR		4	43
総件数	37,895	38,329	44,228

（今野　俊一）

(3) 病理診断科

		2016	2017	2018	2019	2020	2021
剖検数	院内	2	1	2	1	2	3
	院外	0	0	0	0	0	0
	剖検率	20%	11%	20%	7%	17%	21%
組織診断		2,419	2,046	2,206	2,854	2,203	2,203
FISH		1	4	4	1	2	0
剖検症例検討会(CPC)		1	1	0	1	1	1
tumor board		11	7	9	16	12	4

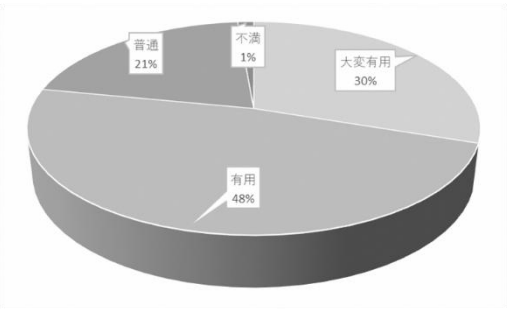
（木村　幸子）

19　薬剤部

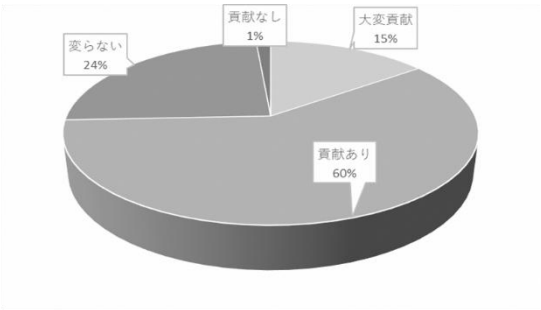
2020 年末からの小林化工の他剤混入事件や COVID-19 の感染拡大国原産の原料や製品の供給などが滞り一年を通じて医薬品の供給が不安定であり，採用薬の確保に忙殺された年であった．2019 年からの病棟業務展開は欠員を抱えるなか，午後に 2 名の薬剤師を A 病棟・B 病棟・母性病棟に横断的に配置し，持参薬業務や算定の可否によらず薬剤管理指導を行ってきた．午後からの持参薬鑑別作業では病棟側のニーズに十分こたえられていなかったが徐々に拡大し，新規電子カルテ上で病棟業務関連の機能が充実したのと 4 月から欠員が解消されたのを契機に 2 名の薬剤師を昼休憩の交代以外は病棟を固定した専任配置とした．さらに生活支援病棟，医療・母子病棟においても持参薬業務のみではあるが拡大を行った．これにより院内全ての病棟での持参薬鑑別が統一した基準で電子カルテ上に報告されることとなった．8 月に当該病棟で従事する医師 39 名・看護師 78 名に薬剤師の病棟業務の各業務についての満足度や負担軽減に関するアンケート調査を行った．回答率（医師 60%，看護師 70%）その結果「持参薬関連業務」，「服薬指導」，「医薬品に関する質問応需や情報提供や注意喚起」に対する満足度が高く，それぞれ全回答の 87.5%，60.9%，60.9%を占めている．また，業務負担軽減に関しては全体で 56%が負担軽減したと回答し，持参薬業務と服薬指導に関して 74%，56.5%が負担軽減していると回答している．病棟薬剤業務はいまだ道半ばであるが病棟のニーズをとらえながら安定的に稼働していることが確認された．

また，医薬品安全管理の一環として「麻薬取扱規程」及び倫理委員会の「禁忌・適応外の医薬品を使用する際のフロー」「院内製剤使用承認の手引き」の策定に尽力し，院内の医薬品・未承認医薬品の適切な使用の推進を目指した活動を行っている．

12 月には道立病院薬局全体会議を道立病院局と共催した．お互いの顔が見える DOWKAI システム上で各施設の稼働状況に相互理解を深めながら，日頃の疑問や業務上の問題点を共有し解決の糸口を見つけられるような検討がなされた有意義な時間であった．今後も継続的にこの会議は継続していきたいと考えている．引き続き道民に対する医療の提供体制の現状を適切に評価し，北海道の地方に居住する道民が安心して生活できるような時勢に沿った医療体制を構築し，最低限以上の医療提供が可能となるような施策の実現のため，今後も意見を述べ是正を促していきたいと考えている．



情報提供の有用性　N＝73



医療安全への寄与　N＝74

薬剤部統計

	入院							外来							
	内服・外用			注射			疑義照会	院内処方			注射	院外処方		発行前疑義照会	院外薬局の疑義
月	枚	件	剤	枚	件	剤	件	枚	件	剤	件	枚数	発行率	件	件
1月	1,580	3,029	22,229	1,424	2,838	4,369	65	180	218	1,314	116	1,184	86.8	64	43
2月	1,909	3,826	27,266	1,861	4,251	6,415	67	149	184	851	51	1,122	88.3	61	40
3月	1,924	3,737	30,746	1,941	4,605	6,982	72	196	239	1,115	114	1,375	87.5	60	63
4月	1,773	3,489	28,311	1,707	3,525	5,268	71	207	254	912	109	1247	85.8	59	57
5月	1,364	2,831	22,005	1,672	3,576	5,307	57	165	201	916	49	1,115	87.1	42	40
6月	1,874	3,911	32,206	1,913	3,882	5,638	59	165	206	718	66	1,281	88.6	53	47
7月	1,778	3,631	30,271	2,056	3,951	5,666	75	180	220	1,053	81	1,255	87.5	63	46
8月	1,652	3,223	27,039	2,126	4,234	6,170	72	161	205	734	98	1,294	88.9	68	60
9月	1,688	3,163	24,831	1,928	4,307	6,254	73	202	245	934	77	1,306	86.6	72	49
10月	1,947	3,561	27,913	2,433	5,000	7,275	77	195	236	1,044	125	1,381	87.6	67	67
11月	1,925	3,445	27,866	2,242	4,646	6,640	74	169	210	929	91	1,288	88.4	63	53
12月	1,586	3,016	29,798	2,097	4,308	6,410	72	175	220	826	126	1,375	88.7	66	41
総計	21,000	40,862	330,481	23,400	49,123	72,394	834	2,144	2,638	11,346	1,103	15,223	1,052	738	606

	抗がん剤混注	TPN調製	院内製剤調製	管理薬品	薬剤管理指導回数	薬剤管理指導料1	薬剤管理指導料2	持参薬鑑別		TDM
	件	件	件	件	回	件	件	枚	件	件
1月	6	85	7	99	75	11	24	55	309	3
2月	1	87	5	109	38	0	14	25	176	2
3月	13	112	6	100	51	2	18	43	314	4
4月	6	103	3	122	62	2	11	62	386	0
5月	9	152	4	77	28	1	6	25	151	6
6月	9	163	4	106	104	3	25	60	350	8
7月	5	125	2	105	148	3	18	72	442	3
8月	0	81	5	101	137	0	32	76	453	11
9月	0	93	3	111	87	0	17	59	341	1
10月	4	73	5	116	127	1	30	76	434	2
11月	4	80	3	115	122	1	36	65	380	1
12月	4	57	1	117	175	4	25	62	435	10
総計	61	1211	48	1278	1154	28	256	680	4171	51

（益子　寛之）

20　栄養指導科

栄養指導科では，医師の指示のもと，病態に応じた適正な栄養管理と乳幼児，成長・発達期である小児の特性を踏まえ，患者様に安心・安全な食事を提供することを目的としている．

また，患者サービスのひとつとして，できる限り個々のニーズに合った食事を提供できるよう努めている．

1）栄養指導科職員数

センター管理栄養士 2 名

給食業務委託職員 29 名（管理栄養士・栄養士 12 名，調理師・調理員・洗浄員 17 名）

2）給食業務委託内容

献立作成，食材発注，調理，盛り付け，配下膳，調乳，配乳，食器等洗浄

3）提供食種

一般食（常食・軟菜食）1000～2100kcal の 5 段階，離乳食，特別食（加算食，非加算食），ミルク，産科出産ねぎらい膳の他，食物アレルギー等による禁忌食など多数の食種に対応している．また，『発達期摂食嚥下障害児(者)のため嚥下調整食分類 2018』に基づき，全粥ゼリー，まとまりペースト食，まとまりマッシュ食（4 月開始）等を朝・昼・夕食の 3 食提供している．

4）給食数

2021 年 1 月～12 月分　87,273 食

5）栄養指導・相談件数

個別指導 55 件，親子入院時相談 215 件〔食事(常菜・軟菜)の作り方，離乳食作り方，ミキサー・うらごし食作り方，高脂血症食，ケトン食，嚥下調整食，肥満対策，食習慣，栄養補給，偏食改善対策，アレルギー食，治療のための禁止食品について等〕

食事に関するパンフレット，レシピを作成し，栄養指導時に活用している．

2021 年には，病棟スタッフに向けて，離乳食の勉強会を実施した．

6）行事食

季節の行事食やおやつ等を年間 14 回提供．毎月行われている誕生会には，入院患者様が希望したメニューとケーキを提供し，喜ばれている．

7）栄養委員会の企画・運営

第 1 木曜日　年 9 回開催

2017 年度より摂食・嚥下リハビリテーション WG も開催している．

8）嗜好調査

年 1 回実施し，患者様のニーズにあった献立を提供している．

（藤田　泉）

21　看護部

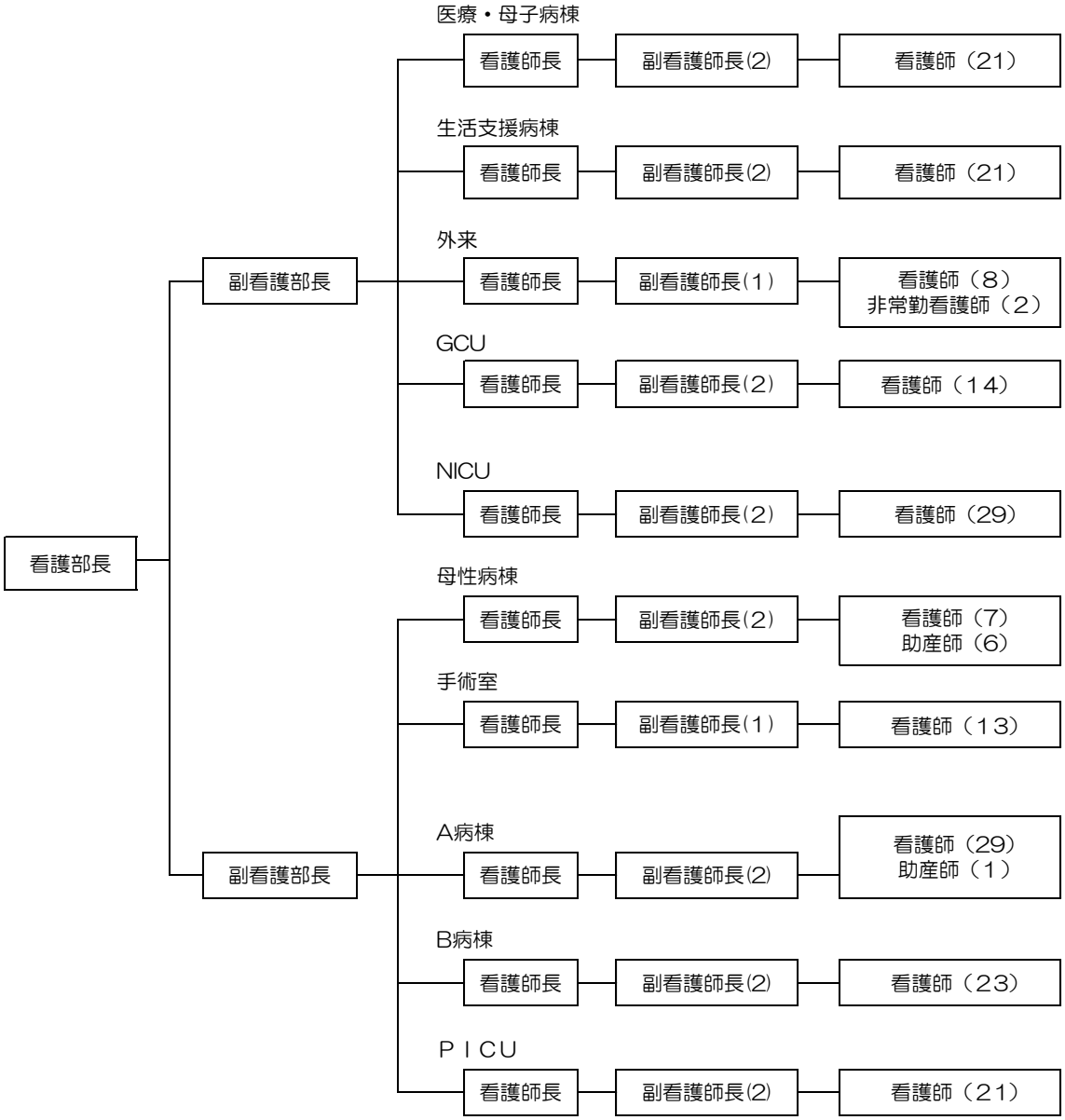
(1) 総括

2021 年も新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった１年間だった.

当センターでも感染症や疑似症患者の増加に伴い，職員の感染や濃厚接触者となる事態が多くなり，患者受け入れ体制や勤務者の変更など様々な対応が求められた.

そのような状況であったが看護部門では，感染対策を徹底し，当センターの医療を継続すること，安心できる在宅移行支援をすることを目標とし，各部署で取り組みを進めることができた.

1）看護部組織図



2）看護職員の配置状況と夜勤体制（2021 年 4 月 1 日現在）

			看護職員数						非常勤看護師	保育士	夜勤体制	
部署	定床	配置整数	部長	副部長	看護師長	副看護師長	一般	計			準夜	深夜
医療･母子病棟	60	24			1	2	20	23		2	3	3
生活支援病棟	50	24			1	2	21	24		6	3	3
A病棟	30	34			1	2	29	32		1	4	4
B病棟	30	26			1	2	23	26		1	3	3
母性病棟	12	17			1	2	13	16			2	2
新生児病棟	18	17			1	2	14	17			2	2
NICU	12	32			1	2	29	32			3	3
PICU	12	24			1	2	20	23			3	3
手術棟		15			1	1	13	15			1	1
外来		9			1	1	8	10	2	1		
看護管理室		3	1	2				3				
計	224	225	1	2	10	18	190	221	2	11	24	24

3）採用・退職状況

項目･内容 ＼ 月			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
採用･退職	正規	採用	8		1	1		1	1	1		1			14
		退職				1					1			16	18
	臨時	採用										1			1
		退職													0
転入出		転入	1												1
		転出													0

(2) 基本理念・基本方針

看護部の基本理念

「私たちは，子どもの命を守り，生活の質を高めるために良質な看護を提供し，健やかな成長・発達を支援します.」

看護部基本方針

1）子どもの人権を尊重し，成長・発達に応じた，高度で質の高い看護を提供します.

2）子どもと家族が安全に，安心して生活・療養できる環境を整えます.

3）専門職業人として看護の質向上をめざし，自己研鑽できる人材を育成します.

4）子どもたちが地域で生活できるように，多職種と協働し支援します.

5）組織の一員として経営感覚を持ち，経済性・効率性をふまえた効果的な看護を実践します.

(3) 組織運営

1）看護師長会

構成員は看護部長，副看護部長，看護師長．月 2 回第 1・第 3 水曜日に定例開催した．センター運営に伴うさまざまな連絡・調整や各病棟等から出された問題の検討，対応策を協議した.

2）教育委員会

構成員は看護師長を委員長とし，看護師長，副看護師長，主任看護師．月 2 回第 2・第 4 火曜日に定例開催した．院内教育研修の企画・運営，研修実施後の評価と OJT 推進に取り組んだ.

3）業務委員会

構成員は看護師長を委員長に副看護師長，主任看護師．第 4 木曜日に定例開催した．業務改善とマニュアル・看護手順の見直しを行った.

4）情報・記録委員会

構成員は看護師長を委員長に副看護師長，主任看護師．第 3 木曜日に定例開催した．記録記載基準の見直し，看護必要度に対応した記録の整備，記録監査を行った．また電子カルテ更新にともなう記録用紙の検討・修正を行った.

5）リンクナース委員会

構成員は感染管理認定看護師を委員長に副看護師長，主任看護師．第 4 水曜日に定例開催した．感染対策に関する問題抽出と，感染対策の実施を周知徹底することを組織的に活動した.

6）セーフティーナース委員会

構成員は看護師長を委員長に看護師長，副看護師長，主任看護師．第 3 火曜日に定例開催した．病棟で起きたリスクについての話し合いや安全ラウンドの実施に取り組んだ.

7）新人看護職員教育担当者委員会

構成員は看護師長を委員長に看護師長，副看護師長，主任看護師．第 1 水曜日に定例開催した．新人看護職員と実地指導者の教育，研修の企画・運営，実施後の評価を行った.

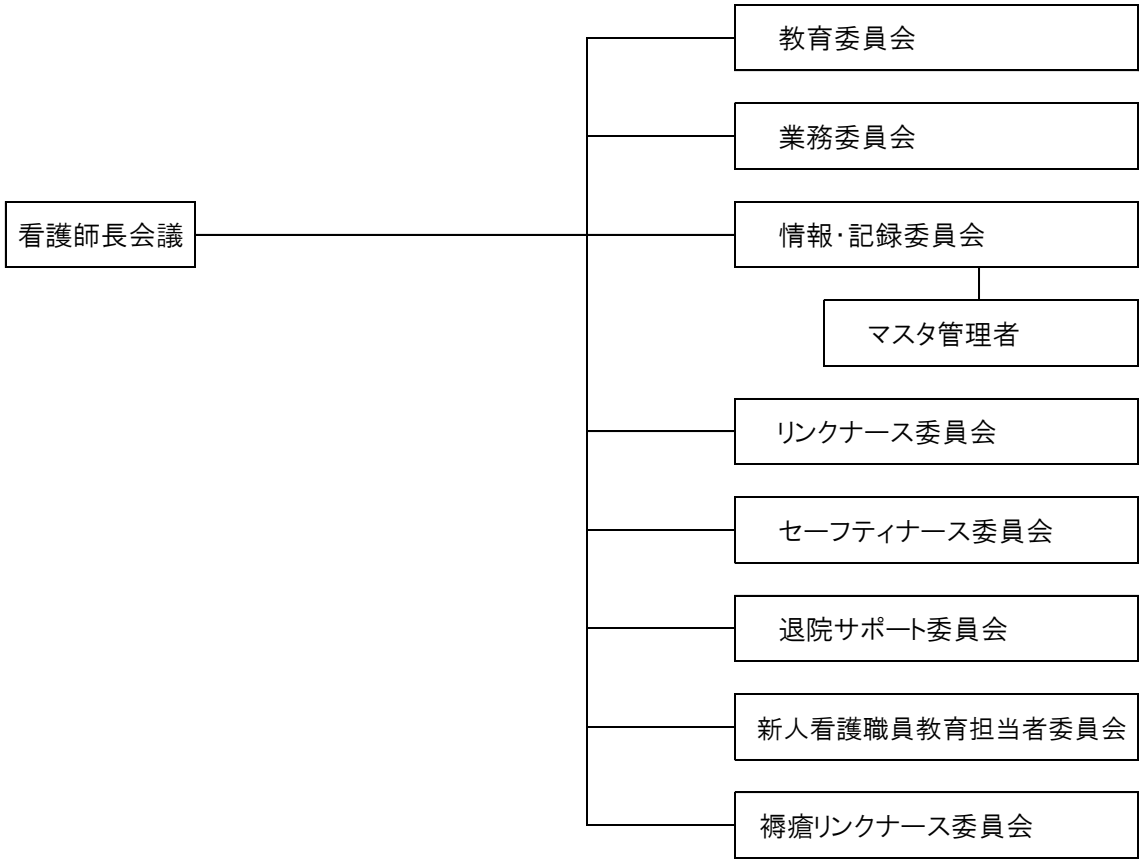
8）退院サポート委員会

構成員は看護師長を委員長に，副看護師長，主任看護師．第 3 火曜に定例開催した．退院調整スクリーニングシートの活用推進や退院サポートに関する研修会の企画運営を行った.

9）褥瘡リンクナース委員会

構成員は皮膚・排泄ケア認定看護師を委員長に，皮膚・排泄ケア認定看護師，副看護師長，主任看護師．第 1 火曜に定例開催した．褥瘡予防，褥瘡危険因子評価，対策を実施し周知する活動を行った．

看護部会議・委員会体系図



(4) 看護職員研修

1) 院内研修実施状況

研修名	
新任者集合研修Ⅰ	看護研究研修Ⅰ
新任研修Ⅱ	看護研究研修Ⅱ
新任研修Ⅲ	PALS 研修
新任研修Ⅲ・多重課題	リーダーシップ研修Ⅰ
新任研修Ⅳ	リーダーシップフォロー研修
新人看護職員集合技術研修	看護倫理
卒後 2 年目研修Ⅰ	看護倫理フォローアップ研修
卒後 2 年目研修Ⅱ	実地指導者研修Ⅰ
卒後 2 年目研修Ⅲ	実地指導者研修Ⅱ
卒後 3 年目研修Ⅰ	エキスパート研修

卒後3年目研修Ⅱ	新人看護職員教育担当者研修
疾患研修（循環器，小児外科，リハビリ整形，神経内科，脳神経外科，泌尿器科）	臨地実習指導者研修

2）院外研修実施状況

① 院外研修

研修名	
認定看護管理ファーストレベル	医療安全管理者養成研修
認定看護管理セカンドレベル	災害ナースの第一歩
保健師助産師看護師実習指導者講習会	災害ナースⅡ
現場に活かせるリスクマネジメント	人事・労務管理
現場で活かせる感染管理（在宅・療養施設）	コンフリクトマネジメント
論理的思考-論理的文書の作成-	看護補助者の活用推進のための看護管理者研修
看護研究に使える統計学	看護倫理～看護で大切なことは何か～
質的研究の基礎知識を学ぶ	最新！現場に活かせるがん薬物療法
指導者のための看護研究-研究クリティーク-	看護の視点で考える -慢性・急性心不全の病態とケア-
看護研究のまとめ方とプレゼンテーション	家族看護　～家族の理解を深めよう～
新人看護職員研修 ～研修責任者・教育担当者～	今こそベテランナースの力を活かすとき！～自己の強みをより発揮できるために～
新任看護職員研修　～実地指導者～	目指せ排泄ケアの達人
「重症度，医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	医療的ケア児支援の看看連携・多職種連携を推進しよう！
コロナ渦から学んだこと～新型コロナウイルス感染症を経て学んだ周産期看護の未来	摂食・嚥下障害ケアの基礎を学ぼう

② 北海道職員研修

本庁主催　新採用職員研修
本庁主催　新任主任級研修
本庁主催　新任主査級研修

＊　新採用職員研修は，感染対策の観点から，集合研修は中止となった．各病院単位の開催となったため，センター内で実施した．

③　北海道立病院看護職員研修

看護師長研修
リーダーシップ研修

④　学会派遣

日本創傷・オストミー・失禁管理学会	日本小児看護学会
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会	日本クリティカルケア看護学会
日本新生児看護学会学術集会	

(5) 看護研究発表

1) 院内看護研究発表

病棟名	演題名	発表者
生活支援	食事の受入が困難な自閉症スペクトグラム障害患者への看護ケアの明確化～看護師のインタビューを通して～	森田　芽梨
母性病棟	小児泌尿器科領域における覚醒時興奮に対する看護実践内容の実態調査	長谷川　佐弥香
A 病棟	小児病棟の看護師の離職願望と職業継続意思の要因の検討	森田　雄介
B 病棟	小児科病棟で働く看護師のアクティブラーニングを活用した集団学習方法の検討	工藤　ゆきな
手術室	Ａ病院における股関節スパイカギブスによる褥瘡発生状況の実態調査	佐藤　彩音
PICU	循環作動薬並列自動交換マニュアル導入への取り組み－看護師へのアンケート評価から得た今後の課題－	杉村　弥咲
外来	在宅中心静脈栄養管理が継続困難な児への自立への取り組み－思春期から若年成人期へ移行する児への働きかけ－	鈴木　麻理

2）院外看護研究発表

演題名	学会名	期間	発表者
出生直後に転院となり緊急手術を必要とする子どもの意思決定を求められる父親の心理状態－父親が単独で児の手術の意思決定を求められた場合－	第30回日本新生児看護学学術集会	2021年5月8日～5月9日（Web開催）	石井　直弥
医療的ケア児の退院支援におけるＥＣＵ看護師が捉える訪問看護師との連携上の困難－インタビューを通して－	第30回日本新生児看護学学術集会	2021年5月8日～5月9日（Web開催）	齊藤　美和子
「超重症児（者）とその家族への看護」の教材作成と評価第1報　看護師の困難さの現状	第30回日本新生児看護学学術集会	2021年6月26日～6月27日（Web開催）	上村　浩太
「超重症児（者）とその家族への看護」の教材作成と評価第2報　意思疎通が難しい超重症児（者）の状況の読み取りと技術	日本小児看護学会第31回学術集会	2021年6月26日～6月27日（Web開催）	上村　浩太
「超重症児（者）とその家族への看護」の教材作成と評価第3報　初心者レベル看護師向け6つの教材と評価	日本小児看護学会第31回学術集会	2021年6月26日～6月27日（Web開催）	野中　貴子

(6) 臨地実習等受け入れ状況

1）臨地実習受け入れ状況

学校養成所名	期間	人数
天使大学看護栄養学部　看護学科	2021年7月5日～10月22日	10名
小樽市立高等看護学院	2021年7月12日～8月27日	12名
札幌医科大学	2021年9月27日～11月17日	16名
札幌医学技術福祉歯科専門学校	2021年10月4日～10月15日	30名
北海道文教大学人間科学部看護学科	2021年10月18日～11月26日	28名
札幌医科大学　助産学専攻科	2021年12月14日～12月17日	8名

22　地域連携課

(1) 組織及び主な業務

地域連携課は，入院・入所児童が障がいの軽減と自立の促進に向けて，高度で良質な医療や療育を受け，退院後も必要なケアを受けながら在宅生活が送れるよう，多職種の連携による支援に取り組んでいる．

1) 生活支援（子ども相談係，保育係）

各種行事の実施や日々の生活サポートなどの業務を児童指導員と保育士が行っている．

2) 相談支援（子ども相談係，在宅支援係，主査（入退院支援），主査（地域連携））

患者・家族からの医療や療育に関わる各種相談への対応を相談員，保健師，看護師，理学療法士などのスタッフが行っている．

3) 臨床支援（子ども相談係，保育係）

心理検査や心理療法，チーム診療などの業務を心理判定員と保育士が行っている．

4) 入退院・在宅支援（在宅支援係，主査（入退院支援））

入退院時の面接相談，在宅生活に向けた関係機関との連絡調整などの業務を看護師，保健師，理学療法士，相談員などのスタッフが行っている．

5) 医療連携（主査（地域連携））

地域の医療機関等からの紹介患者予約，家族からの診療相談などの業務を看護師が行っている．

6) 地域支援・研修（子ども相談係，主査（地域連携））

地域の療育支援に向けた職員の派遣調整や受入研修の開催事務，周産期医療に係る研修会などの業務を児童指導員と看護師が行っている．

(2) 業務実績

主な業務実績は次のとおりである．

1) 主な児童指導事業（2021 年度）

行事名	実施日又は回数	摘要
入・退院式	月 1 回，年 10 回	誕生会と併せて開催
誕生会	月 1 回，年 10 回	入・退院式と併せて開催
運動会	例年 6 月開催	手稲養護学校との共催（規模縮小，分散開催）
夏祭り花火大会	中止（例年 7 月開催）	新型コロナウイルス感染防止のため中止
納涼お楽しみ会	年 1 回(8 月)	夏休み中に帰宅しない児童を対象に実施
文化祭	年 1 回(10 月)	手稲養護学校との共催
クリスマス会	年 1 回(12 月)	生活支援病棟，医療病棟対象で実施
新春ゲーム大会	年 1 回(1 月)	冬休み中に帰宅しない児童を対象に実施
低学年集団遊び	月 1 回，年 8 回	自治的活動(対象：小学 1～3 年生)
高学年集団遊び	月 1 回，年 8 回	自治的活動(対象：小学 4～6 年生)
なかま会	月 1～2 回，年 18 回	自治的活動(対象：中学生)
レッツトライ	月 1 回，年 7 回	自治的活動(対象：高校生)

※　上記行事は発達支援を目的に2階の医療型障害児入所施設の児童を対象に実施しているが，可能な範囲で3階の入院児童も含めて実施している．

※　上記行事のほか，各病棟ごとに節分やひな祭りなどの行事も実施している．

2）心理検査及び心理療法等（2021年度）

区分	実施件数
心理検査	965
心理面接	450
心理療法	295
集団療法	31 （延103人）
親教室講義	16回 （延67人）

3）相談指導

①　相談件数（新規，継続別）

区分	2021年度		摘要
	件数	%	
新規	830	17.4	
継続	3,932	82.6	
計	4,762	100.0	

②　相談件数（入院，外来，院外別）

区分	2021年度		摘要
	件数	%	
入院	1,601	33.6	
外来	2,249	47.2	
院外	912	19.2	
計	4,762	100.0	

※　院外：入院・外来患者以外の患者や家族から電話等により相談があった場合

③　相談内容（延べ件数）

区分	2021年度		摘要
	件数	構成比（%）	
医療給付申請	620	10.7	
医療給付（申請以外）	173	3.0	
療養	103	1.8	
社会資源	403	6.9	
福祉給付	224	3.9	
発達教育	16	0.3	
家族支援	863	14.8	
入所説明	1,634	28.1	
外来受診	259	4.5	
退所先	22	0.4	
退院調整	302	5.2	
その他	1,198	20.6	
計	5,817	100.0	

※　医療給付（申請以外）：具体の申請手続き以外の医療給付に関する相談

4）患者サポート相談窓口の相談件数等（2021 年度／重複で計上）

2013 年 10 月 31 日から医学的な質問，生活や入院上の不安など様々な相談に対応する窓口を設置している．

区分	件数
苦情	38
意見	36
相談	0
問い合わせ	0
計	74

5）入退院支援

患児・ご家族が安心して療養生活を送ることができるよう，入院前の入院案内，退院前後の退院支援を行っている．

① 入院案内（3 階医療部門）

区分	件数
電話による入院案内	1,367
臨時入院への対応	235

② 入院の調整

区分	件数
3 階医療部門	458
2 階療育部門	364
計	822

③ 退院に係る支援・調整

区分	件数
退院支援カンファレンス	121
退院支援・調整	331

④ 入退院支援に係る相談

区分	件数
患者・家族からの相談	55
院内からの相談	562
院外からの相談	284
在宅療養指導管理に係る相談・調整	348
計	1,249

6）周産期養育支援

北海道の「周産期養育支援保健・医療連携システム整備事業」と札幌市の「保健と医療が連携した育児ネットワーク事業」に基づき，退院後も在宅支援を目的に地域の医療機関等との連携を図っている．

① 周産期養育に係る支援
（周産期養育支援連絡書）

区分	2021 年度
センターからの送付数（A）	110
市町村からの報告数（B）	102
返送率（%）（B/A×100）	92.7

② 養育支援（育児支援）
（育児支援連絡書）

区分	2021 年度
センターからの送付数（A）	0
市町村からの報告数（B）	0
返送率（%）（B/A×100）	－

＊ 電話による情報提供

7）在宅療養実施検討会の開催状況

在宅医療支援委員会の下に設置している会議であり，よりよい在宅療養生活を送ることができるよう，関係職種間で援助方針等の共有など適切な援助を行うことを目的に開催している．

区分	2021 年度	摘要
開催回数	9	

8）症例検討ネットワーク会議の開催状況

在宅診療医が関わる患者が増えており，より質の高い在宅療養生活を送ることができるよう，関係医療機関等による会議を開催している．

区分	2021 年度	摘要
開催回数	8	

9）院内定例カンファレンスの実施状況

在宅ケア，療育支援のための定例カンファレンスを開催している．

(外来カンファレンス)

区分	2021 年度	摘要
回　　数	9	
件　　数	33	

(GCU 病棟カンファレンス)

区分	2021 年度	摘要
回　　数	19	
件　　数	97	

(NICU 病棟カンファレンス)

区分	2021 年度	摘要
回　　数	14	
件　　数	134	

10）訪問看護ステーション・訪問リハビリテーションの利用支援

区分	2021 年度	摘要
利用件数	319	
事業所数	75	

11）特別支援学校等における医療的ケア（個別研修・指示確認）の実施状況

特別支援学校通学中の医療的ケアが必要な児童について，学校からの依頼に基づき看護に対して指示確認を行っている．

区分	2021 年度	摘要
学 校 数	15	
児 童 数	33	
回　　数	48	

※　養護学校通学中の医療的ケアについては，北海道においては 2012 年 8 月から看護に対する指示確認に変更している．

※　「道立特別支援学校における医療的ケアの実施要項」に基づき実施している.

12）児童虐待防止に係る症例検討チームの開催状況

2008 年度から児童虐待対策委員会を設置し，必要に応じ関係者による症例検討チームを招集・開催して児童虐待の防止等に関する法律に基づく通告の検討などを行っている.

区分	2021 年度	摘要
開催回数	2	
児相通告件数	1	

13）実習の受入れ

区分	2021 年度	
	回数	人数
検　　査　　部	1	3
リハビリテーション課	49	113
地域連携課	0	0
看　　護　　部	11	140
外　　科　　部	23	55
臨床工学科	6	19
歯　　科	4	12
薬　　局	0	0
手術・集中治療部（麻酔科）	0	0
整形外科	0	0
内科部，周産期母子医療センター	1	1
脳神経外科	1	1
循環器病センター	2	2
心臓血管外科	1	1
計	99	347

14）施設見学

区分	2021 年度	
	回数	人数
企画総務課	0	0
リハビリテーション課	0	0
地域連携課	1	2
看　　護　　部	0	0
その他の部門	1	1
計	2	3

15）特定機能周産期母子医療センター

①　事業内容

当センターは地域の総合周産期センター（6 か所）で対応が困難な新生児に対応する施設として「北海道周産期医療システム整備計画」に基づき設置されており，高度な専門医療の提供のほか，関係者を対象とした研修会を開催している.

なお，2021 年度は新型コロナウイルス感染症の防止対策のため中止とした.

②　研修会の実施状況

区分	2018 年度（参考）	摘要
開　催　日	2019．3．9	
参加機関数	26	
受講者数	42	

16）ボランティア活動の状況

当センターでは，現在 4 つのグループ・団体で構成する「コドモックルボランティア会」が定期的に「贈り読み」や「つくろい」の活動を行っている．

なお，2021 年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の防止対策のため活動は中止とした．

（参考：2019 年度の活動状況）

区分	活動回数	摘要
贈り読み	毎月 2 回	毎月第 1～第 5 月･火曜日のうち 2 回(2 月は除く,)　15:30～16:30
つくろい	毎週 1 回	毎月第 1～第 4 木曜日（8 月は第 4 木曜～，1 月は第 3 木曜～）　10:00～15:00

17）医療機関等からの紹介患者状況

2009 年 12 月から医療機関，保健所，市町村などからの外来紹介患者の受入窓口を設置している．

区分	2021 年度	
	件数 (FAX・電話)	機関数
大学病院	65	9
国立病院機構	27	8
自治体立病院	164	40
公的病院	106	19
法人・個人病院	200	57
診療所	391	148
保健所・市町村	152	37
児童施設・福祉施設・その他の施設	88	30
紹介状なし	107	－
院内新規紹介	87	－
支援事業	16	－
計	1,403	348

18）医療機関への紹介予約

2017 年 4 月から他の医療機関への紹介予約の窓口を設置している．

区分		2021 年度
札幌医科大学附属病院		68
北海道大学病院		19
北海道医療センター		2
その他	道内医療機関	213
	道外医療機関	18
計		320

19）道立施設専門支援事業及び地域療育支援事業

当センターと旭川肢体不自由児総合療育センターが北海道障がい保健福祉圏域（21 圏域）を二分し，市町村（子ども発達支援センター）の要望に応じ職員を派遣し，専門の知識や技術の提供のほか，個別ケースの評価などを行っている．また，2019 年度からは市町村等の職員を当センターに受け入れて研修を行う取組を始めている．

○　派遣状況（2021 年度）

区分	市町名	延派遣人数							
		医師	理学療法士	作業療法士	言語聴覚士	視能訓練士	心理判定員	保育士	計
道立施設専門支援事業（基礎研修・専門研修）	石狩市，美唄市，砂川市，むかわ町，厚真町，厚沢部町，新冠町，白老町，今金町，栗山町，岩見沢市（11 市町）	1	2	5	3	1			12
地域療育支援事業※センター独自事業	美唄市，砂川市，むかわ町，厚真町，厚沢部町，新冠町，今金町，栗山町，岩見沢市（9 市町）	9	0	0	0	0	3	0	12

○　受入状況（2021 年度）

区分	市町名	実人数
地域療育支援事業（現場研修）	北広島市，小樽市，砂川市，滝川市，当別町，倶知安町，厚沢部町	10

20）コドモックル地域連携セミナー

本道の子どもたちの健やかな成長と発達を支援することを目的に，子どもの医療及び療育に係る講演会を地域と連携しながら開催．

	2021 年度	実施市町村等
回数	5	札幌市，北広島市，後志養護教員会，岩内保健所
参加人数	168	

（葛西　直樹）

23　医療安全推進室

(1) 医療安全

1) 2021 年度医療安全管理室体制

医療安全推進室長（副センター長兼任）　1 名

医療安全管理者（主幹　看護師　専従）　1 名

感染管理認定看護師（主査　看護師　専従）　1 名

事務・医療安全担当（主幹　主査　兼任）　2 名

医療ガス・医療機器安全管理責任者（臨床工学科　兼務）　1 名

2) 委員会活動

医療安全委員会：毎月 1 回第 4 月曜日　構成員 20 名　実績定例 12 回（内，書面開催 10 回）

リスクマネジメント委員会：毎月 1 回第 1 火曜日　構成員 28 名　実績定例 12 回（書面開催 8 回）

医療安全推進室カンファレンス：毎週水曜日　構成員 6 名
（医療安全推進室+副看護部長+薬剤部部長）
実績定例 55 回（臨時 7 回含む）
医療事故検討会　16 回

3) マニュアル改定・新規作成

改定：医療安全行為別マニュアル

○ 2. 指示伝達

○ 7. 麻薬・毒薬・劇薬・向精神薬の取り扱い

○ 13. 輸血

○ 18. AED の使い方

○ 11. 血管外漏出予防 対応マニュアル（全面改訂）

作成：医療安全行為別マニュアル

○ 24. 骨折予防に対する対応策

○ 25. がん薬物療法（抗がん剤）における曝露対策

作成：ガイドライン

○ 説明と同意ガイドライン

4）医療安全研修の開催

テーマ	講師	対象（時期）
2020 年度第 2 回医療安全管理研修 Team STEPPS コミュニケーション ツールの使用を継続できていますか	医療安全推進室主幹 稲田早苗	全職員（2 月）
コドモックルにおける医療安全対策	医療安全推進室主幹 稲田早苗	新採用者（4 月）
2021 年度第 1 回医療安全管理研修 ①過去 3 年間の「転倒．転落」事故の分析と再発防止策の検討 ②「人工呼吸器・加温加湿器」の勉強会	①医療安全推進室主幹 稲田早苗 ②臨床工学科 萬徳円	全職員（7 月）

5）地域連携

連携施設：加算 1　手稲渓仁会病院　イムス札幌消化器中央総合病院

加算 2　イムス札幌内科リハビリテーション病院

医療安全地域連携シートを用いて，Web にて監査を行った．骨折リスク判定表を使用した骨折予防策は評価して頂いた．（手稲渓仁会病院から監査を受け，イムス札幌消化器中央総合病院，イムス札幌内科リハビリテーション病院の監査を実施した）

6）インシデント・アクシデント報告（2021.1.1-2021.12.31 実績）

レベル	件数
レベル 0	487
レベル 1	652
レベル 2a	52
レベル 2b	7
レベル 3	2
合計	1,200

7）まとめ

今年は，レベル 2b および 3 の発生件数が合計 9 件あった．確認の怠りやマニュアルが遵守されていなかったケースが殆どであった．なかでも，血管外漏出はコンパートメント症候群を発症し，減張切開が必要となってしまった（レベル 3，過誤あり）．2013 年にも皮膚移植を必要とした血管外漏出の医療事故が発生しており，マニュアルを全面改訂し，周知徹底を図っているところである．2022 年 2 月より，マニュアル遵守状況確認のためのラウンドを計画している．レベル 1～2a のインシデント・アクシデント報告でも，マニュアル遵守できていない報告が多かったため，マニュアル改定や新たに作成することに重点を置いた活動となった．2022 年度は，マニュアルの遵守状況を確認のためのラウンドを定期的に行い，課題を抽出し各部署の支援に繋げていきたい．

当センターに「説明と同意のガイドライン」がなく，現場で混乱が生じていた．医療安全推進室で 1 年間ワーキングを行い，ガイドラインを作成した．2022 年 4 月のリスクマネジメント委員会で周知していく予定である．

8）感染管理に関すること

① 所管委員会の企画，運営

・感染対策委員会（月例：第 4 月曜日，12 回）

・ICT 会議（月例：第 3 火曜日，12 回）

・AST 会議（月例：第 3 火曜日，12 回）

・感染リンクスタッフ委員会（月例：第 4 水曜日，12 回）

② 医療関連感染対策に関する内部規定およびマニュアルの作成，改訂

・改訂－「新型コロナウイルス感染症」「尿道カテーテル管理」

③ 感染対策に関する研修の企画，運営

・職員対象研修／講習会の企画，運営

2021 年 1 月 27 日～2 月 12 日

「小児の COVID-19 に関する医学的知見の現状」

「新型コロナウイルス感染症 感染防止対策 コドモックルのルール」

参加人数 359 名

2021 年 7 月 28 日～8 月 10 日

「栄養指導科･企画総務課職員の新型コロナウイルス感染症発生時の対応」

参加人数 312 名

・新採用職員に対する研修会

2021 年 4 月 6 日

「医療関連感染と感染防止対策」

④ 病院感染対策の推進

・ 職員の抗体価検査およびワクチン接種（インフルエンザ，小児流行性ウイルス疾患，B 型肝炎）

・職員の新型コロナワクチン接種と検査（PCR 検査，抗原検査）

・院内ラウンド（ICT ラウンド 54 回，リンクスタッフラウンド 6 回）

・抗菌薬ラウンド（症例検討 28 回）

⑤ 感染情報の集約と提供

・感染情報レポート（週報・月報）

・特定抗菌薬使用状況報告

・厚生労働省サーベイランス（JANIS） 全病院部門，検査部門，NICU 部門への参加

・日本環境感染学会 JHAIS 委員会 医療器具関連サーベイランス NICU 部門への参加

・感染対策連携共通プラットフォーム（J-SIPHE）への参加

・感染管理地域連携道央ネットワーク（ICRADON）　MRSA サーベイランスへの参加
・薬剤耐性菌サーベイランス
・手指衛生サーベイランス（全病棟）
・カテーテル関連血流感染サーベイランス（A 病棟，B 病棟，PICU，NICU，GCU）

⑥　対外活動

・日本小児医療協議会施設協議会　感染管理ネットワーク web 会議への参加（2 回）
・札幌東豊病院（感染防止対策加算 2 施設）との合同カンファレンス（4 回）
・手稲渓仁会病院（感染防止対策加算 1 施設）との相互監査（各 1 回）

24　業績（科名の「小児」を一部省略）

(1) 原著論文・著書

＜小児血液腫瘍内科＞

1. 足立 周平，竹林 晃，家里 琴絵，五十嵐 敬太，山本 雅樹，　堀 司，小田 孝憲，縫 明大，木村 幸子，高橋 秀史，石井 玲，川崎 幸彦. 卵巣再発を来したBリンパ芽球性白血病に対して両側卵巣・卵管摘出および非血縁者間臍帯血移植を行った一例. 日本小児血液・がん学会雑誌 57：394-398，2020

＜腎臓内科＞

1. 長岡由修．ネフローゼ症候群，慢性糸球体腎炎とIgA腎症，アルポート（Alport）症候群, 多発性のう胞腎. 小児慢性腎臓病患者のための移行期医療支援ツール「おしっこ（尿）と腎臓の不思議」．34-46，53-56，2021

＜小児外科＞

1. Shinichiro Yokoyama, Akihiro Nui, Kako Ono, Satsuki Hashimoto, Shigeki Nishibori, Hiromi Hamada, Ichiro Takemasa . Perioperative outcomes of laparoscopic fundoplication for gastroesophageal reflux disease in children with or without scoliosis. Pediatr Surg Int. 37:1725-1730, 2021

＜脳神経外科＞

1. Yoshifuji K, Omori Y, Morota N. Physiological defects of lumbosacral vertebral arches on computed tomography images in children. Childs Nerv Syst. 37:1965-1971，2021.
2. 吉藤和久．外傷後水頭症・外傷後脊髄空洞．小児頭部外傷の診断と治療 第1版，中外医学社．188-193，2021

＜泌尿器科＞

1. 桐澤崇宏，上原央久，河口亜津彩，荒木義則，西中一幸：多嚢胞性異形成腎に対する排尿時膀胱尿道造影の必要性の検討，日本小児腎臓病学会雑誌，34: 33-37，2021
2. 石部絵梨奈，河口亜津彩，木村幸子，高橋秀史，上原央久，西中一幸，荒木義則:反復する肉眼的血尿により発見された膀胱内乳児血管腫の1例．日本小児腎臓病学会雑誌 34: 153-158，2021
3. 上原央久:【尿路性器感染症　治療・管理・再発防止のトピックス】(chapter 3)事例とともにさまざまなシーンにおける尿路感染症を考える　小児泌尿器疾患に関連する尿路感染症，泌尿器 Care & Cure Uro-LO 26: 699-704，2021

＜新生児内科＞

1. 浅沼秀臣，中村秀勝．赤血球の異常（貧血，多血症）．周産期医学必修知識　第 9 版．582-585，2021
2. 中村秀勝，浅沼秀臣．新生児の体温管理．周産期医学必修知識．第 9 版．1100-1102，2021.
3. 串間 奈々，石川淑，中村秀勝，澤田まどか，高室基樹，浅沼秀臣，川崎幸彦．FBN1 遺伝子に同一バリアントを認め経過が異なった新生児 Marfan 症候群の 2 例．日本小児科学会雑誌 25：1562-1567，　2021

＜産科＞

1. 倉橋　克典，石郷岡　哲郎．生後 7 日間以内に外科治療を行った重症先天性心疾患 52 例の出生前診断に関する検討～思いがけぬ新生児搬送を減らすために何ができるか？～．北海道産科婦人科学会会誌 65：，2021

＜リハビリテーション整形外科＞

1. Hiroki Fujita, Hiroyori Fusagawa, Hisato Nishibu, Toshiya Nosaka, Toshikatsu Matsuyama, Kousuke Iba, Toshihiko Yamashita. Motion analysis and surgical results of anterior transfer of flexor hallucis longus for equinovarus gait in children with hemiplegia. J Orthop Sci 26：441-447, 2021.
2. 清水淳也，藤田裕樹，山下敏彦：尿路結石を併発した両側乳児股関節脱臼の 1 例 日小整会誌 30： 21-24，2021.

＜リハビリテーション課＞

1. Takahito Inoue，Yui Sato，Kotaro Shimizu，Hideyuki Tashiro，Yuichiro Yokoi，Naoki Kozuka．Effects of cane use on walking parameters and lower limb muscle activity in adults with spastic cerebral palsy：a cross-sectional study．J Phys Ther Sci．33：544-548，2021
2. Takahito Inoue，Hiroto Izumi，Hisato Nishibu，Nobuaki Himuro．Reliability，validity，and minimal clinically important differences of the Japanese version of the early clinical assessment of balance in children with cerebral palsy．Disabil Rehabil. 19：1-7，2021
3. 井上和広，福士善信，横井恵巨，古俣春香，西部寿人，高島朋貴，加藤久幸，金田直樹，草間かおり，和泉裕斗，土嶺博希，井上孝仁．小児理学療法ガイドライン．二分脊椎症，骨形成不全症．理学療法ガイドライン第 2 版：166-181，2021

＜循環器内科＞

1. 親谷佳佑，名和智裕，澤田まどか，高室基樹．特徴的な画像検査所見を呈した三心房心の 2 例．小児内科 53：705-709，2021.
2. Baba K, Suda K, Takamuro M, Takahashi S, Sugiyama H, Fujimoto K, Kitano M, Fujii T, Kise H, Ohtsuki S, Tomita H. Static balloon atrial septostomy in Japan in shortage of standard balloon septostomy catheter. J Cardiol. 78:219-223, 2021
3. Fukuda Y, Tsugawa T, Nagaoka Y, Ishii A, Nawa T, Togashi A, Kunizaki J, Hirakawa S, Iida J, Tanaka T, Kizawa T, Yamamoto D, Takeuchi R, Sakai Y, Kikuchi M, Nagai K, Asakura H, Tanaka R, Yoshida M, Hamada R, Kawasaki Y. Surveillance in hospitalized children with infectious diseases in Japan: Pre- and post-coronavirus disease 2019. J Infect Chemother 27:1639-1647, 2021

＜麻酔科＞

1. Sakai W, Tachibana S, Yamakage M. Cross-Holes on a Plastic Bag Can Prevent Droplet Spread During Extubation. Anesth Analg. 131 : e189-e191, 2020
2. Sakai W, Chaki T, Tachibana S, Nawa Y, Yamakage M. Subcutaneous tunnelling of pediatric peripheral nerve block catheters: a novel technique to minimize catheter damage. Can J Anaesth 68:159-160, 2021
3. Sakai W, Tachibana S, Chaki T, Nakazato N, Horiguchi Y, Nawa Y, Yamakage M. Safety of an improved pediatric epidural tunneling technique for catheter shear. Paediatr Anaesth 31: 770-777, 2021
4. Sakai W, Hasegawa G, Chaki T, Tachibana S, Yamakage M. Aerosol boxes decrease aerosol exposure only in depressurized rooms during aerosol-generating procedures in a simulation study. J Anesth 3：1-10, 2021

＜臨床検査・病理診断科＞

1. 乳児の鼻咽頭側壁に発生した有毛性ポリープ(Hairy polyp)の一例．木村幸子，光澤博昭，高橋秀史．診断病理 38: 240-246, 2021
2. 思春期女児の卵巣に発生した Seromucinous borderline tumor (SMBT) の一例．木村幸子，高橋秀史，浜田弘巳，橋本さつき，西堀重樹，縫明大．日本小児血液・がん学会雑誌 58：80, 2021

(2) 学会発表・講演

＜小児血液腫瘍内科＞

1. 實川 友美，小田孝憲，西堀 重樹，浜田 弘巳，縫 明大，吉藤 和久，木村 幸子，高橋 秀史． 後縦隔ダンベル型悪性ラブドイド腫瘍の 1 例．第 63 回日本小児血液・が

ん学会学術集会（2021. 11. 25-27. 大阪/web）

＜腎臓内科＞

1. 長岡由修，津川毅，浜田弘巳，縫明大，木村幸子，小川弥生，森貞直哉，野津寛大，飯島一誠，川崎幸彦．PKD1 変異を同定した常染色体劣性多発性嚢胞腎類似の臨床像を有する乳児例．第 56 回日本小児腎臓病学会学術集会（2021. 6. 25-8. 2 web）

＜小児外科＞

1. 横山新一郎，縫明大，小野賀功，橋本さつき，西堀重樹，浜田弘巳，竹政伊知朗，側弯症の有無による腹腔鏡下噴門形成術の周術期アウトカムについて，第 58 回日本小児外科学会学術集会　（2021. 5. 20　東京/web）
2. 石井生，横山新一郎，橋本さつき，西堀重樹，浜田弘己，木村幸子，石川淑，縫明大，胎便閉塞性疾患で発症し，遷延する肝障害と繰り返す肺炎から診断された嚢胞性線維症の 1 例，第 58 回日本小児外科学会学術集会　（2021. 5. 20　東京/web）
3. 小野賀功，縫明大，横山新一郎，橋本さつき，西堀重樹，浜田弘己，上原央久，西中一幸．当施設における鎖肛に合併する泌尿器科疾患とそのファロー．第 30 回日本小児泌尿器科学会総会（2021. 7. 4 大阪）横山新一郎，縫明大，橋本さつき，西堀重樹，浜田弘巳，木村幸子，高橋秀史，造影 CT 及び MRI が診断に有用であった大網嚢腫の 1 例，第 4 回北海道外科関連学会機構合同学術集会 HOPES2021　（2021. 9. 12　札幌/web）石井　生，横山新一郎，橋本さつき，西堀重樹，浜田弘己，木村幸子，石川淑，縫　明大，乳児期に複数回の外科治療を要した嚢胞性線維症の 1 例，第 4 回北海道外科関連学会機構合同学術集会 HOPES2021　（2021. 9. 12　札幌/web）橋本さつき，縫明大，横山新一郎，石井生，西堀重樹，浜田弘巳，黒瀬誠，光澤博昭，佐藤里奈，高橋秀史，木村幸子，新生児甲状腺未熟奇形腫の 1 例，第 4 回北海道外科関連学会機構合同学術集会 HOPES2021　（2021. 9. 12　札幌/web）
2.

＜脳神経外科＞

1. 吉藤和久，大森義範，山崎覇久，三國信啓．典型的 retained medullary cord と一部にその特徴を持つ周辺疾患．第 49 回日本小児神経外科学会（2021. 6. 4-5 福島/Web）
2. 吉藤和久，大森義範，齋藤拓郎，藤田裕樹，師田信人．放射線画像上の生理的椎弓二分所見（未骨化所見）-病的二分脊椎との鑑別を念頭に-．第 38 回日本二分脊椎研究会（2021. 7. 17 大阪/Web）
3. 吉藤和久，大森義範，齋藤拓郎，三國信啓，師田信人．小児放射線画像にみる生理的な椎弓二分所見（未骨化所見）．第 80 回日本脳神経外科学会総会（2021. 10. 27-29 横浜/Web）

4. 吉藤和久，大森義範，齋藤拓郎，師田信人．腰仙部にみる放射線画像上の生理的椎弓二分所見．第 38 回日本こども病院神経外科医会（2011. 11. 7 埼玉/Web）
5. 大森義範，吉藤和久，斎藤拓郎，三國信啓．VP シャントを施行した小児水頭症の臨床的特徴．第 30 回脳神経外科手術と機器学会（2021. 4. 24 札幌/Web）
6. 大森義範，吉藤和久，斎藤拓郎，三國信啓. 軟骨無形性症の外来フォロー時期と経過に関する検討．第 47 回小児神経外科学会（2021. 6. 4，福島 Web）
7. 大森義範，吉藤和久，三國信啓．頭皮下に発生した皮膚型 Juvenile xanthogranuloma の 2 例．第 38 回日本こども病院神経外科医会（2021. 11. 7 埼玉/Web）
8. Kazuhisa Yoshifuji，Yoshinori Omori，Izumi Koyanagi．Enlargement of spinal lipoma in early postnatal period，2021 Virtual meeting of the international sociaty for pediatric neurosurgery ．（2021. 11. 5-7　Singapore/ Web ）

＜泌尿器科＞

1. 桐澤崇宏，上原央久，河口亜津彩，荒木義則，西中一幸．多嚢胞性異形成腎に対する排尿時膀胱尿道造影の必要性の検討．（2021. 1. 9 金沢）
2. 上原央久，西中一幸，舛森直哉．ビベグロン投与により形態的，機能的に改善した二分脊椎に伴う神経因性膀胱の 1 例. 第 29 回日本小児泌尿器科学会総会（2021. 2. 2 東京）
3. 上原央久，栗栖知世，西中一幸，舛森直哉．当科における腹腔鏡下腎盂形成術の治療成績．第 35 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会．（2021. 11. 11 横浜）
4. 西中一幸，上原央久．原発性膀胱尿管逆流に対する内視鏡的注入逆流防止術（STING+HIT 術式）の治療成績. 第 109 回日本泌尿器科学会総会（2021. 12. 19 横浜）

＜新生児内科＞

1. 石川淑，中村秀勝，浅沼秀臣．出生直後の哺乳前から血便を呈した新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症の 1 例．第 65 回日本新生児成育医学会学術集会（2021. 5. 7-9 札幌）
2. 浅沼秀臣，小林正樹，大門祐介，中村英記，立花幸晃，佐藤敬，浅井洋子，林時仲，古瀬優太，岡本年男，長屋．母乳育児支援の地域格差　北海道内の全市町村母子保健担当者へのアンケート調査からあぶりだされたこと．第 65 回日本新生児成育医学会学術集会（2021. 5. 7-9 札幌）
3. 浅沼 秀臣．ブラックアウトが病院の電源・ガス供給システムの重要性を再認識させてくれた. シンポジウム「北海道胆振東部地震・ブラックアウトから学んだ教訓を未来につなぐ」．第 30 回日本新生児看護学学術集会（2021. 5. 8-9 札幌）

＜リハビリテーション整形外科＞

1. 下山浩平，藤田裕樹，山下敏彦．月齢 3 カ月で骨盤骨切り術を施行した総排泄腔外反症の 1 例．第 139 回北海道整形災害外科学会（2021. 1. 30-31 Web）

2. 下山浩平，藤田裕樹，房川祐頼，松山敏勝，山下敏彦. PFKE index を用いた脳性麻痺患児への手術評価．第 94 回日本整形外科学会学術集会（2021. 5. 20-23 Web）
3. 清水淳也，藤田裕樹, 山下敏彦．脚長不等を伴った小児膝滑膜骨軟骨腫症の 1 例 第 32 回日本小児整形外科学会学術集会（2021. 12. 2-3 Web）
4. 下山浩平，藤田裕樹．PFKE index を用いた脳性麻痺患児への手術評価 第 32 回日本小児整形外科学会学術集会（2021. 12. 2-3 Web）
5. 井上孝仁，藤田裕樹．半腱様筋移行術を施行した痙性対麻痺患児における術前後の機能変化：症例報告．第 32 回日本小児整形外科学会学術集会（2021. 12. 2-3 Web）
6. 片岡楓，中橋尚也，清水淳也，藤田裕樹．脳性麻痺患児の股関節脱臼術後 ADL，QOL 追跡調査－家族へのアンケートを通じて―短期的追跡，第 1 報．第 32 回日本小児整形外科学会学術集会（2021. 12. 2-3 Web）
7. 藤田裕樹，中橋尚也，房川祐頼，松山敏勝，山下敏彦．Paulo Selber：Gait profile score and gait variable scores in patients with involved with limb length discrepancy. 第 32 回日本小児整形外科学会学術集会（2021. 12. 2-3 Web）

＜精神科＞

1. 金井由美子，才野　均．特定機能周産期母子医療センターの NICU における家族に対する心理支援．第 30 回日本乳幼児医学・心理学会（2021. 3. 13 Web）
2. 才野均.「子どものこころの症状と支援について」.（2021. 6. 11 新冠町，2021. 11. 18 平取町 道立施設専門支援事業専門研修 Web）
3. 才野均.「胆振東部地震災害時の子どものこころのケア」.（2021. 9. 3 Web「災害時のこころのケア研修」）
4. 才野均.「子どものこころの発達とそのつまずきについて」.（2021. 10. 12 岩内町 地域連携セミナー Web）
5. 才野均.「子どものこころの発達と支援について」.（2021. 11. 18 平取町/Web）
6. 花香真宜.「みんなで繋がる発達支援策」.（2021. 12. 16 今金町）

＜リハビリテーション課＞

1. 豊田悦史.「上肢機能評価とエビデンスに基づくリハビリテーション（CI/HABIT）」. 日本脳性麻痺・発達医学会主催　第 2 回 CP フォーラム（2021. 3. 14 web）
2. 西部寿人．重度脳性麻痺児の乳幼児期の哺乳と 6 歳時点の摂食機能の関連についての後方視的調査．第 65 回日本新生児成育医学会学術集会.（2021. 5. 7-9 web）
3. 藤坂広幸.「北海道における小児作業療法：歴史と中核施設の役割」. 2021 年度北海道作業療法士会主催　新人研修（発達障がい　10 回シリーズ）（2021. 6. 2 web）
4. 松下慎司.「脳性麻痺児の評価と治療１・２」. 2021 年度北海道作業療法士会主催　新人研修（発達障がい　10 回シリーズ）（2021. 6. 30，2021. 7. 7 web）

5. 池田陽介. ICT を活用したコロナ禍での連携. 第 38 回日本障害者歯科学会(2021. 9. 25-10. 11 web)
6. 西部寿人．脳性麻痺をもつ方に対する日本語版 VFCS : Visual Function Classification System の信頼性･妥当性の検討. 第 8 回日本小児理学療法学会学術大会. (2021. 11. 28-29 web)
7. 和泉裕斗．脳性麻痺児の電動車椅子導入前後の変化について-AB デザインによる比較-．第 8 回日本小児理学療法学会学術大会．(2021. 11. 28-29 web)
8. 井上孝仁．脳性麻痺児における日本語版 Early Assessment of Balance の信頼性，妥当性，MCID の検討．第 8 回日本小児理学療法学会学術大会（2021. 11. 28-29 web）
9. 井上孝仁．半腱膜様筋移行術を施行した痙性対麻痺児における術前後の機能変化：症例報告．第 32 回日本整形外科学会学術集会（2021. 12. 2 web）
10. 加藤久幸．コロナウイルス感染症（COVID-19）禍における当院の親子入院について．北海道乳幼児療育研究会第 35 回研究大会シンポジウム（2021. 10. 9 web）

＜循環器内科＞

1. 名和智裕．症例のフィードバック～完全大血管転位～第 5 回北海道胎児心エコー研究会（2021. 7. 3 札幌）
2. 名和智裕．シンポジウム 5「成人先天性心疾患」先天性心疾患の術前管理．日本臨床麻酔学会第 41 回大会（2021. 11. 5-6 札幌）
3. 澤田まどか，吉川靖，名和智裕，高室基樹．当院の心臓 MRI 検査．第 74 回北海道小児循環器研究会（2021. 4. 24 Web）
4. 高室基樹，澤田まどか，名和智裕，吉川靖．コドモックルで行った static BAS．第 74 回北海道小児循環器研究会（2021. 4. 24 Web）
5. 澤田まどか，吉川靖，名和智裕，高室基樹. ADO-II のディスクは留置後 3 ヶ月で扁平化する．第 57 回日本小児循環器学会学術集会（2021. 7. 9-11 奈良・Web）
6. 吉川靖，澤田まどか，名和智裕，高室基樹．川崎病巨大冠動脈瘤 1 症例における冠動脈病変の画像モダリティ間の比較．第 57 回日本小児循環器学会学術集会（2021. 7. 9-11 奈良・Web）
7. 高室基樹, 吉川靖, 名和智裕, 澤田まどか, 和田励, 春日亜衣, 門田尚子．動脈管拡張末期血流速度は平均肺動脈圧を反映する. 第 57 回日本小児循環器学会学術集会 (2021. 7 月 9-11 奈良・Web)
8. 高室基樹, 吉川靖, 名和智裕, 澤田まどか, 和田励, 春日亜衣．Amplatzer Duct Occluder-I（ADO-I）の最小径は留置から半年かけて一定値に収束する．第 57 回日本小児循環器学会学術集会（2021. 7. 9-11 奈良・Web）
9. 名和智裕, 吉川靖, 澤田まどか, 高室基樹, 新井洋輔, 岡本卓也, 夷岡徳彦, 大場淳．二心室修復を目指した両側肺動脈絞扼．第 57 回日本小児循環器学会学術集会（2021. 7. 9 -11

奈良・Web）

10. 名和智裕, 吉川靖, 澤田まどか, 高室基樹, 新井洋輔, 岡本卓也, 夷岡徳彦, 酒井渉, 太安孝允, 大場淳一．PICU における先天性心疾患患者に対する手術後の早期リハビリテーションの取り組み．第 57 回日本小児循環器学会学術集会（2021. 7. 9-11 奈良・Web）
11. 野田昇宏，名和智裕，澤田まどか，高室基樹，新井洋輔，浅井英嗣，夷岡徳彦，大場淳一，大野真由美，中村秀勝，石川淑，浅沼秀臣，酒井渉．当院で Norwood 手術の待機中に動脈管ステント留置術を施行した 4 症例の臨床経過．第 72 回北日本小児科学会（2021. 9. 10-11 札幌）
12. 高室基樹，和田励，野田昇宏，名和智裕，澤田まどか，春日亜衣，石井玲．成長ホルモン治療開始に伴い左室流出路狭窄が増大した Noonan 症候群合併肥大型心筋症．第 30 回日本小児心筋疾患学会学術集会（2021. 10. 16・Web）
13. 澤田まどか，名和智裕，高室基樹．左室拡張末期血流パターンは年齢により異なる．第 75 回北海道小児循環器研究会（2021. 11. 6 札幌・Web）
14. 高室基樹，和田励，名和智裕，澤田まどか，春日亜衣．フォンタン術後，陳旧性心筋梗塞後の不適切洞性頻拍に対するイバブラジンの使用経験．第 25 回日本小児心電学会学術集会（2021. 11. 26-27・Web）

＜麻酔科＞

1. 名和由布子 : 特別講演 : 歯科麻酔と小児麻酔．第 35 回北海道臨床歯科麻酔学会（2021. 7. 10 Web）
2. 名和由布子：教育講演：新生児の解剖的特徴．日本小児麻酔学会第 26 回大会（2021. 10. 16-17 仙台 Web）
3. 長谷川 源，酒井 渉，茶木 友浩，立花 俊祐，名和 由布子．小児用 EA-Shield の使用で抜管後の気道確保を可能としながら, 飛沫・アエロゾル感染防護が可能である．日本小児麻酔学会第 26 回大会（2021. 10. 16-17 Web）
4. 高橋 可南子，名和 由布子．術後慢性疼痛管理に難渋した短腸症候群の 1 例．日本小児麻酔学会第 26 回大会（2021. 10. 16-17 Web）

＜放射線部＞

1. 今井翔．MAGNETOM Sola の使用経験．第 31 回北海道 MAGNETOM 研究会（2021. 5. 8 Web）

＜病理診断科＞

1. Classification for pediatric germ cell tumor and pathological diagnosis of immature teratoma. Kimura S, Takakuwa E, Yanai H. The 110th Annual Meeting of the

Japanese Society of Pathology（2021.4.22-24 Tokyo/Web）

2. 頸部リンパ節神経膠腫症を伴った先天性甲状腺未熟奇形腫. 木村幸子, 高橋秀史. 2021 日本病理学会小児腫瘍症例検討会（2021.9.4 Web）
3. 胚細胞腫瘍.　木村幸子.　日本病理学会　希少がん診断のための病理医育成事業　小児腫瘍エキスパート育成講習会（2021.12.12 Web）.

編集後記

年報 2021 年号をお送りします.

2021 年号はコロナ禍となり 3 度目の年報発行となります。当センターでは 5 月より新型コロナワクチン接種が開始され、院内では患者様、職員、関係者への 3 回の接種を行い、北海道ワクチン接種センターの運営にも積極的に参加しました。ワクチン接種により流行が下火となった中、東京オリンピックの競歩とマラソンが開催され、大変な盛り上がりで幕を閉じました。そのなかでも，平時と変わらず道内各施設との役割分担を行い，小児の高度な医療を提供して参りました. そうした新型コロナ以前の医療レベルより，さらによりよい医療を実践するために努力を重ねている院内各部署の奮闘ぶりをご評価いただきたいと思います.

また，編集作業の大部分が新型コロナオミクロン株の大流行時期と重なりました. 診療および総務課業務のほか，新型コロナ対応に尽力する合間を縫って，編集作業をこなして下さった編集委員各位にこの場を借りて深く感謝いたします.

（編集委員長　木村幸子）

＝＝＝

発行年月日　2022 年 10 月 12 日

発行　　　　北海道立子ども総合医療・療育センター

編集委員（五十音順）　在原正泰，木村幸子，下原隆宏，髙室基樹，藤岡綾子，藤田裕樹.

＝＝＝

つぶやきックル